



令和7年度 馬獣医療実態調査

【報告書】

令和8年2月27日

目次

調査概要 P2

Summary P4

<調査結果詳細>

1.飼育馬の飼育概要 P11

2.飼育馬の健康管理と衛生管理 P19

3.馬の感染症対策について P 23

4.助成事業について P34

5.2016年度～2025年度 種類・用途・導入元・年齢把握 P39

I . 調査概要

調査概要

調査目的	地域における馬飼養実態を把握し、地域の馬飼養衛生管理を充実させる。 令和7年度の調査においては、従来の基本的事項に加え、馬の健康管理や衛生管理、馬の感染症対策についての調査を実施し、飼養衛生管理の向上や、ワクチン接種による感染症予防対策の向上に役立てるために馬獣医療実態調査を実施する。
調査手法	郵送調査 (各道府県、畜産団体等を通じて、対象者に協力依頼文書及びアンケートに協力を願う調査を行う)
対象者条件	全国の馬飼養関係者
回収数	馬飼養関係者：934サンプル（1,832施設に配布）
調査期間	2025年11月～12月
備考	※報告書スコア n=30未満は参考値として、グレーハッチング

II .Summary

Summary① 飼育馬の飼育概要

■ 飼育馬施設の住所地・回答者の職種 (F0・Q1)

- ✓ 回答があった地域は「関東」「北海道・東北」がそれぞれ24%。この2地域で約半数を占める。
- ✓ 回答者の職種は、「農場主」が44%で最も多い。次いで「その他」が41%で多く、具体的には「インストラクター」「学生、大学生」「教員、学校職員」「飼育員」等の回答が挙げられた。

■ 施設の種類・従業員数 (Q2・Q3)

- ✓ 施設の種類の「乗馬クラブ」が33%で最も多く、次いで「個人の飼育施設」が29%。「その他」は31%で、具体的には「動物園」「観光牧場」「大学馬術部」「福祉施設」等の回答が挙げられる。
- ✓ 従業員数は正社員、アルバイト、家族経営、その他のいずれにおいても「5人未満」が最も多い。

■ 飼育馬の種類・日本在来馬の品種・飼育馬の用途 (Q4・Q4-5・Q5)

- ✓ 飼育馬の種類は、「軽種馬」が53%で最も多く、次いで「乗系馬」が19%で多い。
- ✓ 日本在来馬の品種は「北海道和種」が42%で最も多く、「トカラ馬」が23%で2番目に多い。
- ✓ 飼育馬の用途は「乗用」が40%で最も多く、次いで「競走用」「肥育用」が15%で多い。

■ 飼育馬の導入元 (Q6)

- ✓ 飼育馬の導入元は「乗馬クラブ」が45%で最も多く、次いで「中央競馬」「公営（地方）競馬」が24%で多い。飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』は「乗馬クラブ」、『競走用』は「中央競馬」、『繁殖用』は「自家生産」が特に多く、用途により飼育馬の導入元も異なる。

■ 飼育馬の年齢把握方法 (Q7)

- ✓ 飼育馬の年齢把握方法は、「記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」が87%で最多。

■ 飼育馬の年齢分布 (Q8)

- ✓ 飼育馬の年齢分布は、いずれの年齢も「5頭未満」が最多。『21～30歳』については同項目が71%で大半を占める。
- ✓ 『31歳以上』は「0頭」「5頭未満」がそれぞれ約半数ずつ占める。

Summary② 飼育馬の健康管理と衛生管理

■ 飼育馬の毎日の観察方法(Q9)

- ✓ 飼育馬の毎日の観察方法は、「餌を与えた際の食欲等を確認している」が92%で最も多く、次いで「馬房にいるときの様子を観察している」が90%、「糞の状態を観察している」が83%の順が多い。
- ✓ 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』『競走用』は、全体よりも5pt以上高い項目が多く様々な方法で観察をしているが、『繁殖用』に関しては全体よりも低い項目が多く、「特段決めておらず、馬の様子で確認している」が全体よりも5pt以上高い。
- ✓ 施設の種類でみると、『育成牧場』『乗馬クラブ』は全体よりも5pt以上高い項目が多く、多岐にわたる方法で観察をしているが、『生産農場』については、「特段決めておらず、馬の様子で確認している」が全体よりも5pt以上高い。

■ 飼育馬に異状が認められた場合の対応(Q10)

- ✓ 飼育馬に異状が認められた場合の対応は、「診療獣医師に診療を依頼又は相談する」が94%で特に多く、「自家治療で様子を見る」が30%、「家畜保健衛生所に相談をする」が7%。
- ✓ 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』は「自家診療で様子を見る」が約40%で全体よりも高い。

■ 自家治療の内容 (Q11)

- ✓ 自家治療の内容は「跛行等、軽症なもの。のち獣医師に依頼。」「疝痛で排泄の様子を見るとか、えさを抜くとか、かんちょうとか、体温。」「軽度のケガなどは手持ちの薬品で治療。」等の回答が挙げられており、跛行や疝痛等の軽度なものであれば、自家治療で様子を見て、良くならない場合は獣医に依頼をしているという回答が多い。

- 9割以上の馬飼養者が食欲や馬房での様子を観察している。一方で、繁殖用の馬は「特段決めておらず、馬の様子で確認する」の割合が多い。
- 異状時には94%が「診療獣医師に診療を依頼又は相談する」体制がある一方で、乗用・競技用の馬は「自家診療」と併用している。跛行や疝痛等の軽度なものであれば、初期対応として自家診療しており、回復がみられない場合は、獣医に依頼をしている。

Summary③-1 馬の感染症対策について

■ワクチン接種の目的(Q12)

- ✓ ワクチン接種の目的は、「自牧場の馬の疾病予防のため」が67%で最も多く、次いで「特定の施設へ異動するため（例：馬術競技大会等への参加、競馬場への入厩）」が18%が多い。
- ✓ 飼育馬の用途でみると、『愛玩・展示用』『福祉用』は「自牧場の馬の疾病予防のため」が7割を超えて特に多く、『競技用』『競走用』は「特定の施設へ異動するため（例：馬術競技大会等への参加、競馬場への入厩）」が全体よりも10pt以上高く、飼育馬の用途によってワクチン接種の目的が異なる。

■ワクチンの接種状況(Q13)

※「実施している計」＝「全頭に接種している」＋「一部に実施している」

- ✓ ワクチンの接種状況は「全頭に接種している」が最も多く71%、「**実施している計**」は**81%**。
- ✓ 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』『競走用』は「全頭に接種している」が8割超えであるが、『愛玩・展示用』は「ワクチン接種をしたことがない」が全体よりも5pt以上高く、ワクチンの接種率が他の馬と比べて低い。
- ✓ 施設の種類でみると、『個人の飼育施設』は「ワクチンを接種したことがない」が29%で全体よりも10pt以上高い。

■接種経験のあるワクチンの種類(Q14)

- ✓ 接種経験のあるワクチンの種類は、「**3種混合不活化ワクチン（馬インフルエンザ・破傷風・日本脳炎）**」が**81%**で最も多く、次いで「**馬インフルエンザワクチン**」が**74%**が多い。この2種類のワクチンは他の種類のワクチンと比べて特に多い。

■ワクチン接種のスケジュール管理者(Q15)

- ✓ ワクチン接種のスケジュール管理は、「牧場管理者が管理しており、接種のたびに獣医師に依頼している」が59%で最も多く、次いで「獣医師が管理しており、牧場へ連絡が入る」が26%が多い。

■「ワクチンの一部接種」の対象(Q16)

- ✓ ワクチンの一部接種の対象は、「競技会等へ参加する馬のみ」が34%で最も多く、次いで「繁殖用馬のみ」「人と接する機会の多い馬のみ」が約20%が多い。

■ワクチン接種をしたことがない理由(Q17)

- ✓ ワクチン接種をしたことがない理由は、「他の施設（牧場や競技会場等の施設）に移動しない、他の馬との接触がないから」が51%で他の理由と比べて特に多い。特に、『愛玩・展示用』は同項目が約60%で全体よりも5pt以上高い。
- ✓ ワクチンの接種経験でみると、『接種なし』は「愛玩用だから」「伝染性疾患に罹ることがまずないから、又は感染症の流行がないから」が全体よりも5pt以上高い。

Summary③-2 馬の感染症対策について

■馬インフルエンザワクチンの接種方法(Q18)

- ✓ 馬インフルエンザワクチンの接種方法は「毎年2回接種している」が80%で最も多く大半を占める。
- ✓ 施設の種類でみると、『乗馬倶楽部』は「毎年2回接種している」が94%で非常に高い。一方で、『生産農場』『個人の飼育施設』は同項目が全体よりも10pt以上低く、「年1回だけ接種している」が全体よりも高い。

■馬鼻肺炎ワクチンを接種している馬(Q19)

- ✓ 馬鼻肺炎ワクチンを接種している馬は、「妊娠馬の全頭に接種している」が41%で最も多く、次いで「繁殖牝馬以外の馬にも接種している」が24%が多い。

■「馬の予防接種要領」「予防接種実施要領」の認知(Q20)

- ✓ 「馬の予防接種要領」「予防接種実施要領」の認知状況は、「はい」が62%、「いいえ」が35%で半数以上の馬飼養者が認知している。
- ✓ 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』『競走用』は「はい」が75%以上を占めている。一方で『愛玩・展示用』『繁殖用』『伝統行事（祭）用』は「いいえ」が40%以上で、飼育馬の用途によって認知に差が出ている。
- ✓ ワクチンの接種経験でみると、『全頭に接種』は「はい」が72%で、認知率が高い。

■各ワクチン接種要領の準拠状況(Q21)

- ✓ 各ワクチンの接種要領の準拠状況は、「獣医師の指示通りに接種している」が32%で最も多く、次に「日本馬術連盟の要領に準じている」が27%が多い。
- ✓ 飼育馬の用途でみると、『競技用』は「日本馬術連盟の要領に準じている」が55%で半数以上を占めている。

- 81%がワクチン接種をしており、「3種混合不活化ワクチン（馬インフルエンザ・破傷風・日本脳炎）」「馬インフルエンザワクチン」が特に接種されている。一方で、愛玩・展示用の馬や個人の飼育施設の馬はワクチンの接種率が低い。
- 競技・競走用の馬は、ワクチンの接種率や予防接種要領・予防接種実施要領の認知率が高い一方で、愛玩・展示用の馬は「移動がない」等の理由から接種率、認知率ともに低い傾向にある。

Summary④ 助成事業について

■ ワクチン接種に係る助成事業の認知(Q22)

- ✓ ワクチン接種に係る助成事業の認知は、「知っている」が71%、「知らない」が28%で多くの馬飼養者がワクチンの助成事業を認知している。
- ✓ 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』『競走用』は「知っている」が80%超えで全体よりも10pt以上高い。一方で、『伝統行事（祭）用』は、「知らない」が41%で全体よりも10pt以上高く、認知が低い。
- ✓ ワクチンの接種経験でみると、『接種なし』は「知らない」が**66%**で半数以上が助成事業を認知していない。

■ ワクチン接種費用の助成受給状況(Q23)

- ✓ ワクチン接種費用の助成受給状況は、「助成を受けたことがある」が52%、「助成を受けたことがない」が46%を占めており、半数が受給経験がある。
- ✓ ワクチンの接種経験でみると、『全頭に接種』は『一部のみ接種』よりも、「助成を受けたことがある」が**20pt以上高い**。

■ ワクチン接種費用の助成を受けたことがない理由 (Q24)

- ✓ ワクチン接種費用の助成を受けたことがない理由は、「助成事業を知らなかった」が**34%**で最多。
- ✓ 施設の種類でみると、『乗馬倶楽部』は「その他」が最も多く、具体的には「ワクチンが入手出来なかった」「提出書類が用意出来なかった為」等の回答が挙げられた。
- ✓ ワクチンの接種経験でみると、『接種なし』は「助成事業を知らなかった」が42%で最も多くを占めており、全体よりも5pt以上高い。

➤ ワクチンを全頭に接種している馬飼養者ほど、助成事業を活用している。一方で、ワクチン未接種層の66%が助成事業そのものを「知らない」と回答している。また、助成を受けたことがない理由としても「助成事業を知らなかった」ことが最多。

Ⅲ. 調査結果詳細

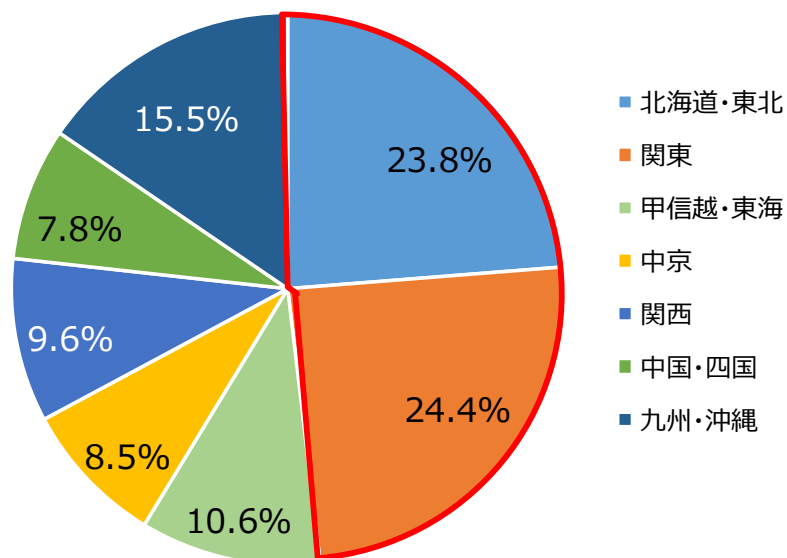
1.飼育馬の飼育概要

飼育馬施設の住所地／回答者の職種

- 回答があった地域は「関東」「北海道・東北」がそれぞれ24%で、この2地域で約半数を占める。
- 回答者の役職は、「農場主」が44%で最も多い。「その他」では以下の職種が回答される。（一部抜粋）

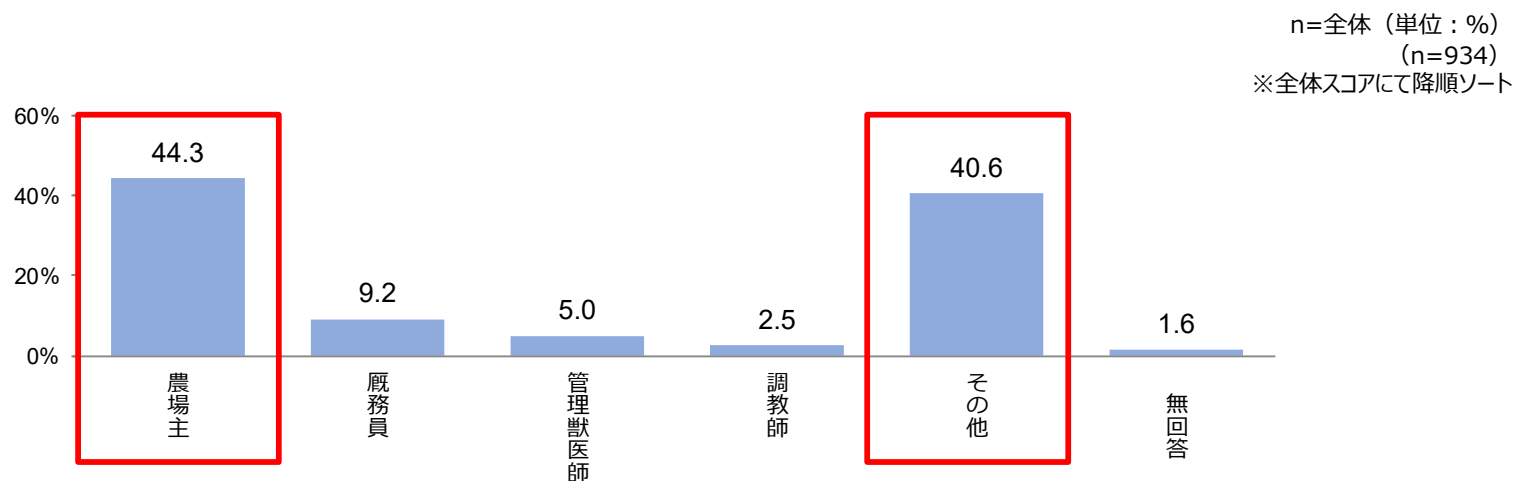
n=全体（単位：%）
(n=934)

F0. あなたの飼育馬施設の住所地をご記入してください。



Q1. ご回答者の「職種」をお選びください。（複数回答可）

- 【その他（抜粋）】
- ・飼育員
 - ・インストラクター
 - ・学生、大学生
 - ・教員、学校職員
 - ・事務員
 - ・スタッフ
 - ・職員獣医師
 - ・市職員
 - など

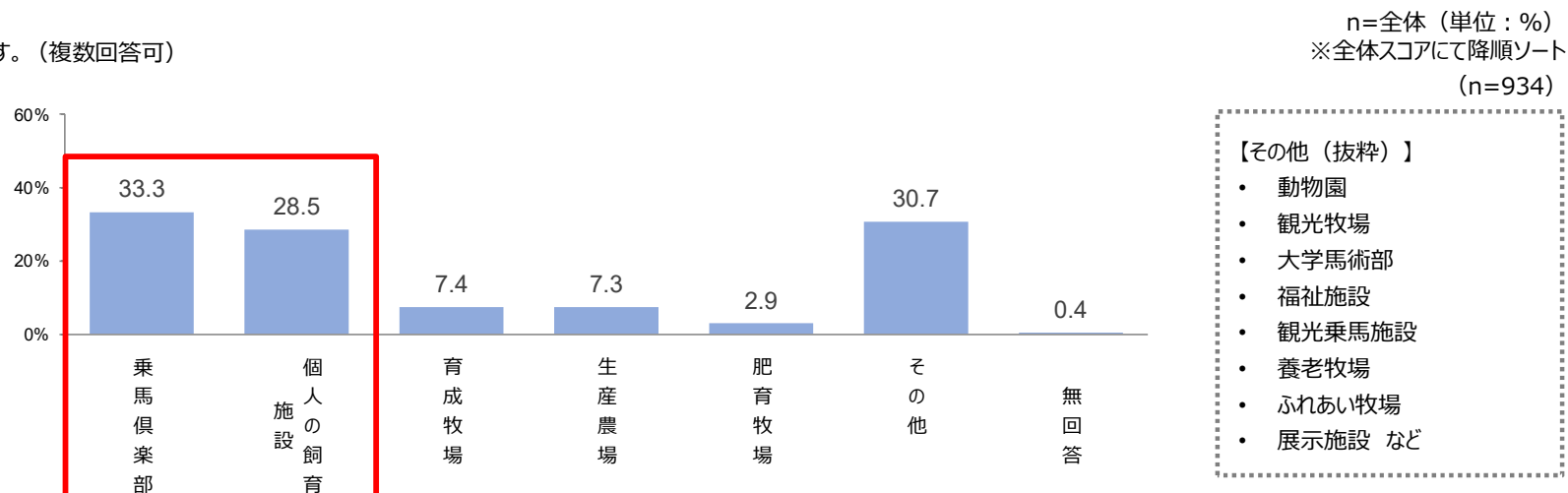


n=全体（単位：%）
(n=934)
※全体スコアにて降順ソート

施設の種類／従業員数

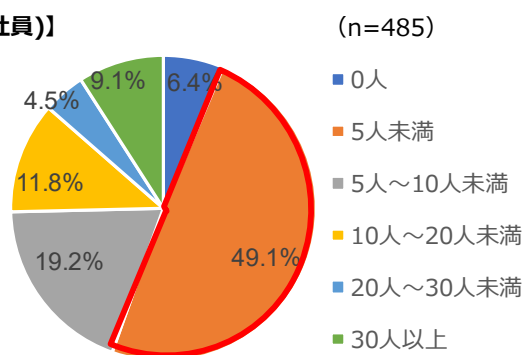
- 施設の種類の「乗馬クラブ」が33%、「個人の飼育施設」が29%と続き、これらの施設で60%以上を占める。
- 従業員数は、いずれも「5人未満」が最も多い。

Q2. 施設の種類についてお伺いします。(複数回答可)

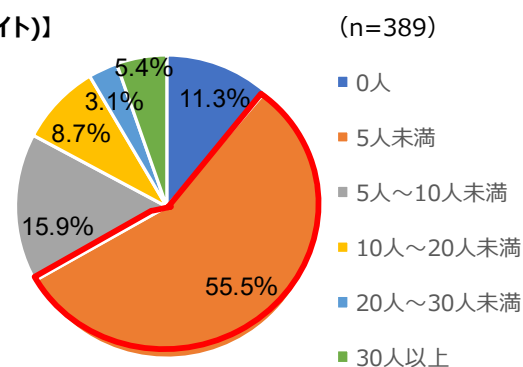


Q3. 施設の従業員数 (規模) はどの位ですか。

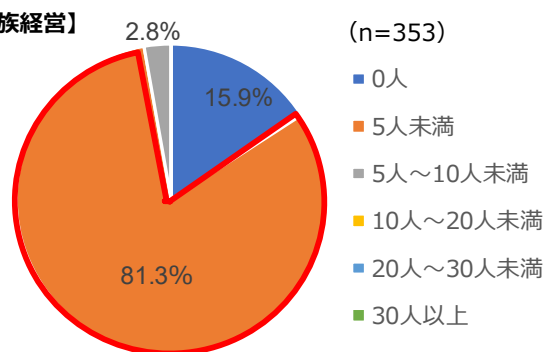
【従業員(正社員)】



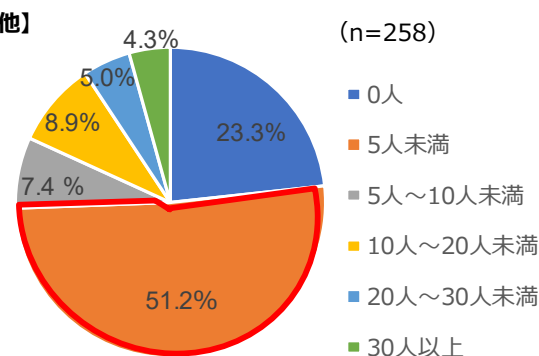
【従業員(アルバイト)】



【家族経営】



【その他】

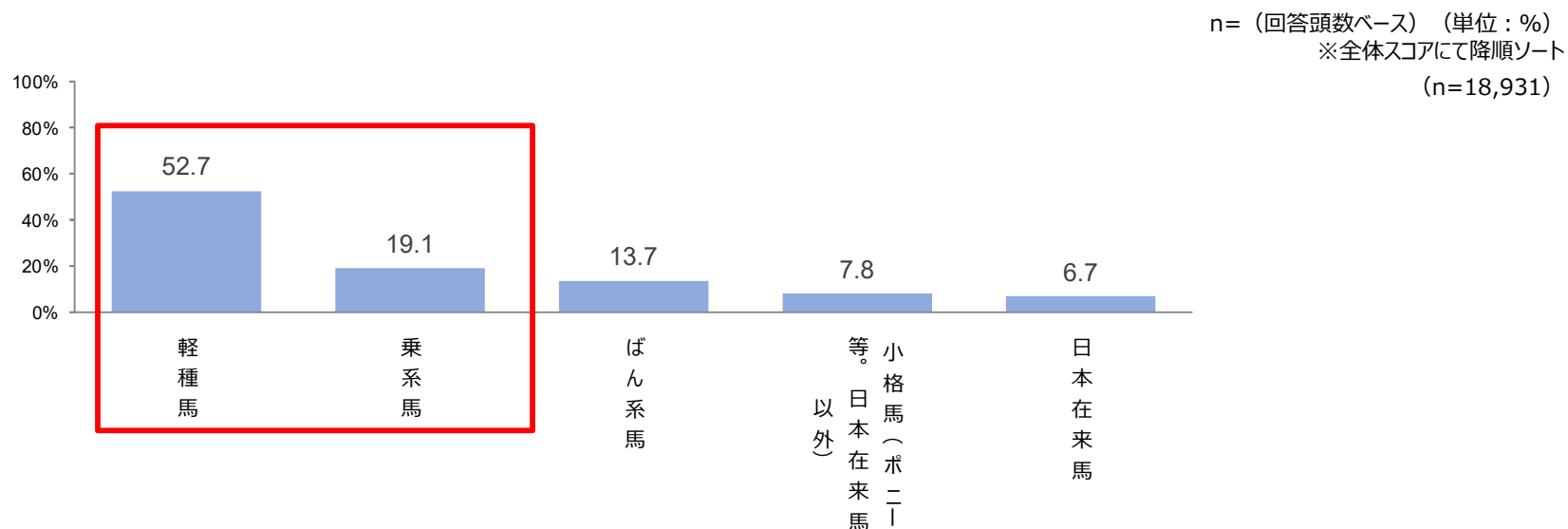


n=回答者ベース (単位: %)

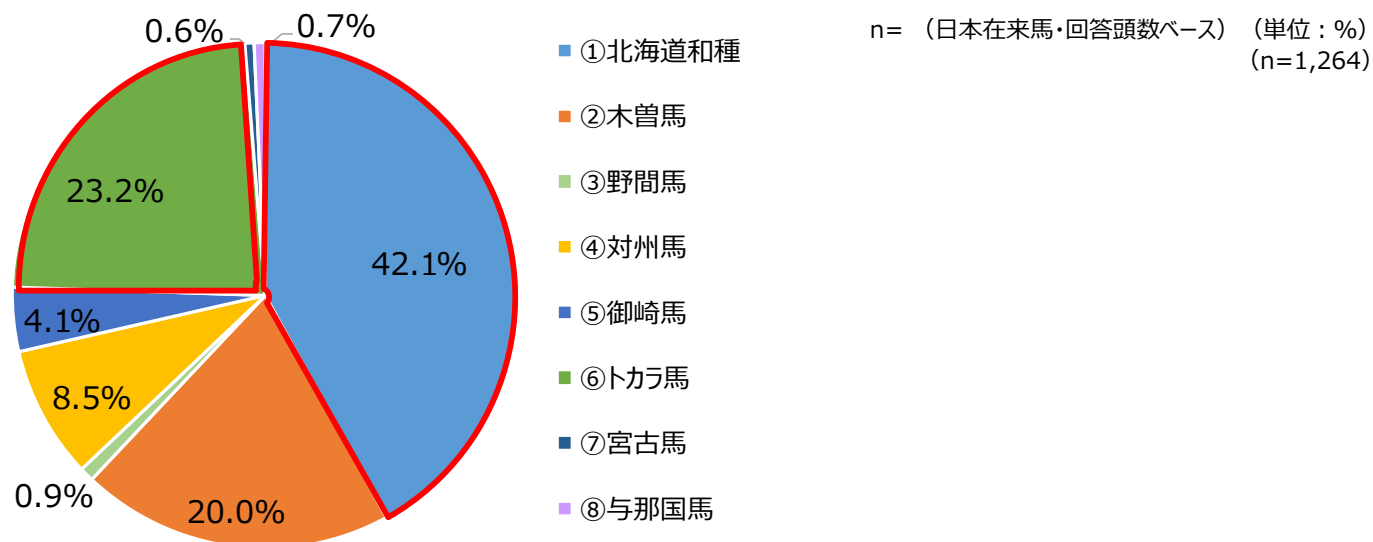
飼育馬の種類・日本在来馬の品種

- 飼育馬の種類は、「軽種馬」が53%で最も多く、次いで「乗系馬」が19%が多い。
- 日本在来馬の品種は、「北海道和種」が42%で最も多く、「トカラ馬」が23%で2番目に多い。

Q4. 飼育馬の種類



Q4-5. 日本在来馬の品種

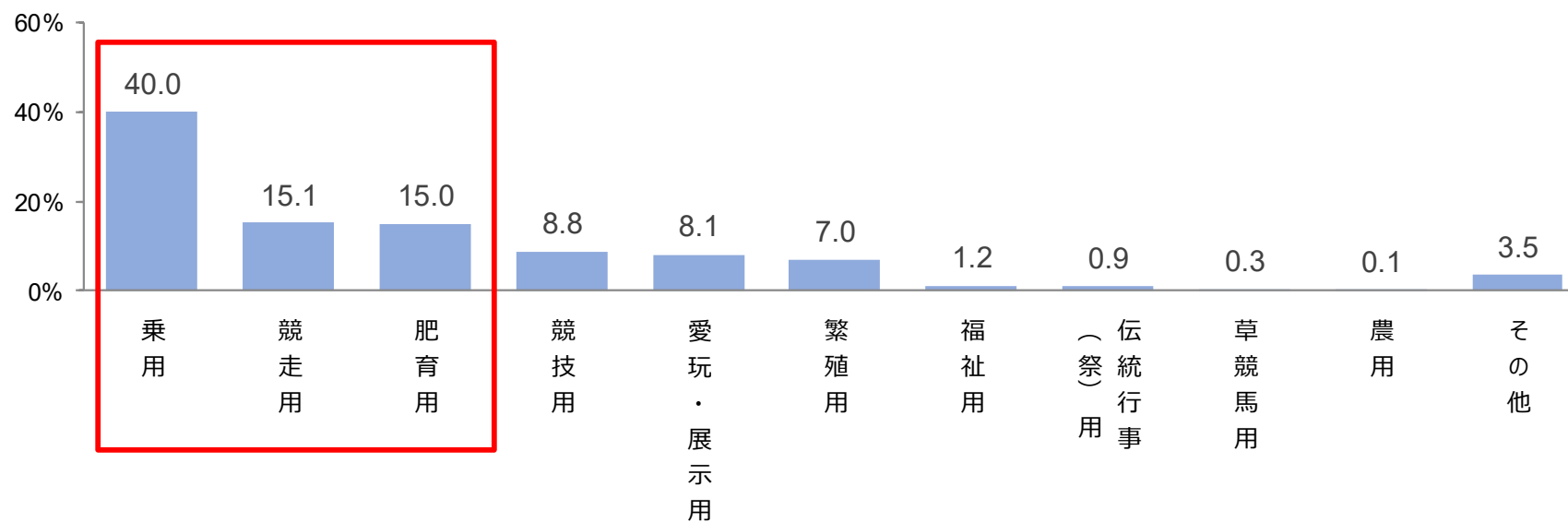


飼育馬の用途

➤ 飼育馬の用途は「乗用」が40%で最も多く、次いで「競走用」「肥育用」が15%が多い。

Q5. 飼育馬の用途

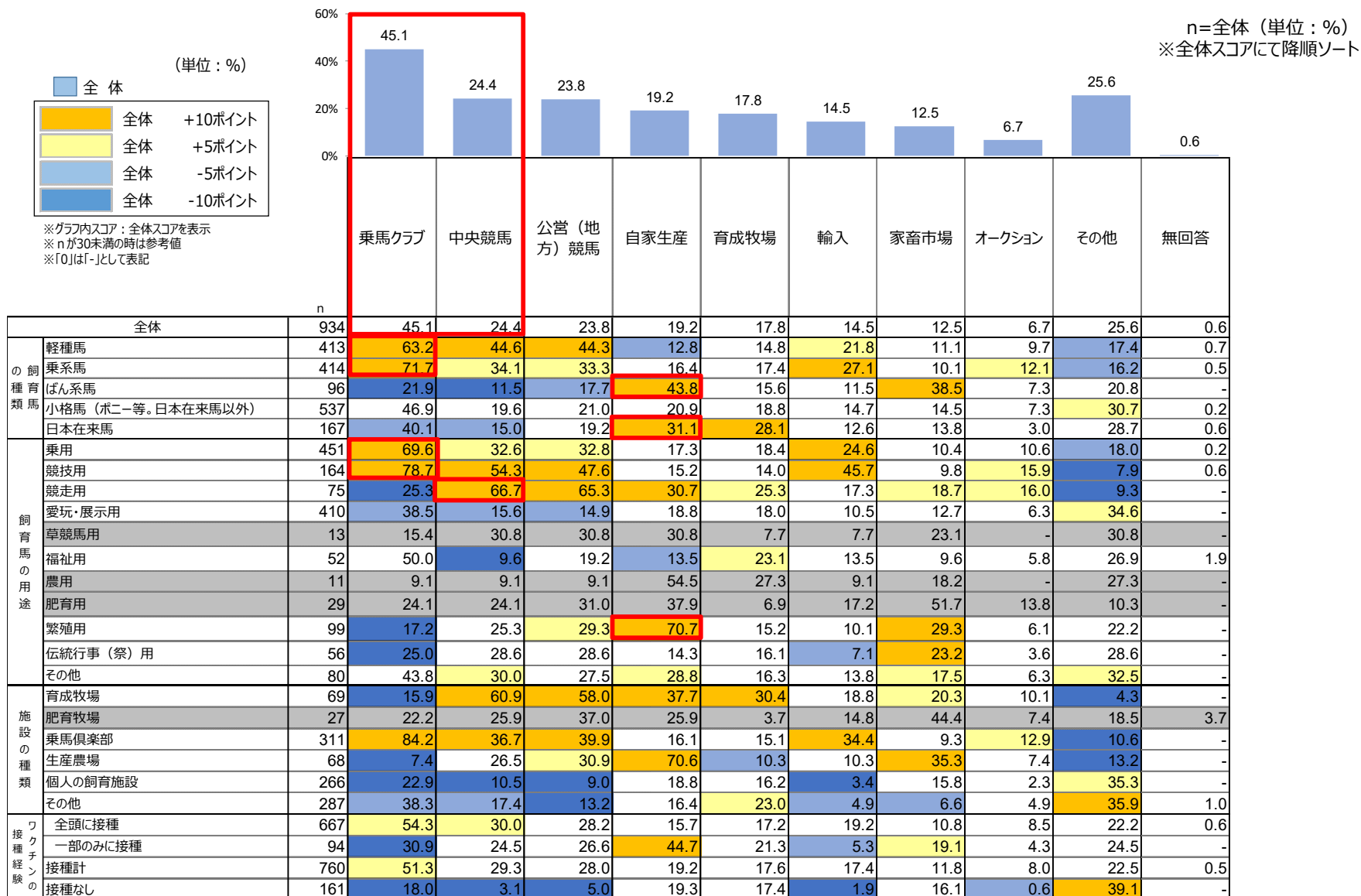
n= (回答頭数ベース) (単位: %)
※全体スコアにて降順ソート
(n=15,614)



飼育馬の導入元

- 飼育馬の導入元は、「乗馬クラブ」が最も高く45%、「中央競馬」「公営(地方)競馬」が24%で続く。
- 飼育馬の種類でみると、『軽種馬』『乗系馬』は「乗馬クラブ」が全体よりも10pt以上高い。一方で、『ばん系馬』『日本在来馬』は「自家生産」が全体よりも10pt以上高い。
- 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』は「乗馬クラブ」が、『競技用』は「中央競馬」が、『繁殖用』は「自家生産」が特に多い。

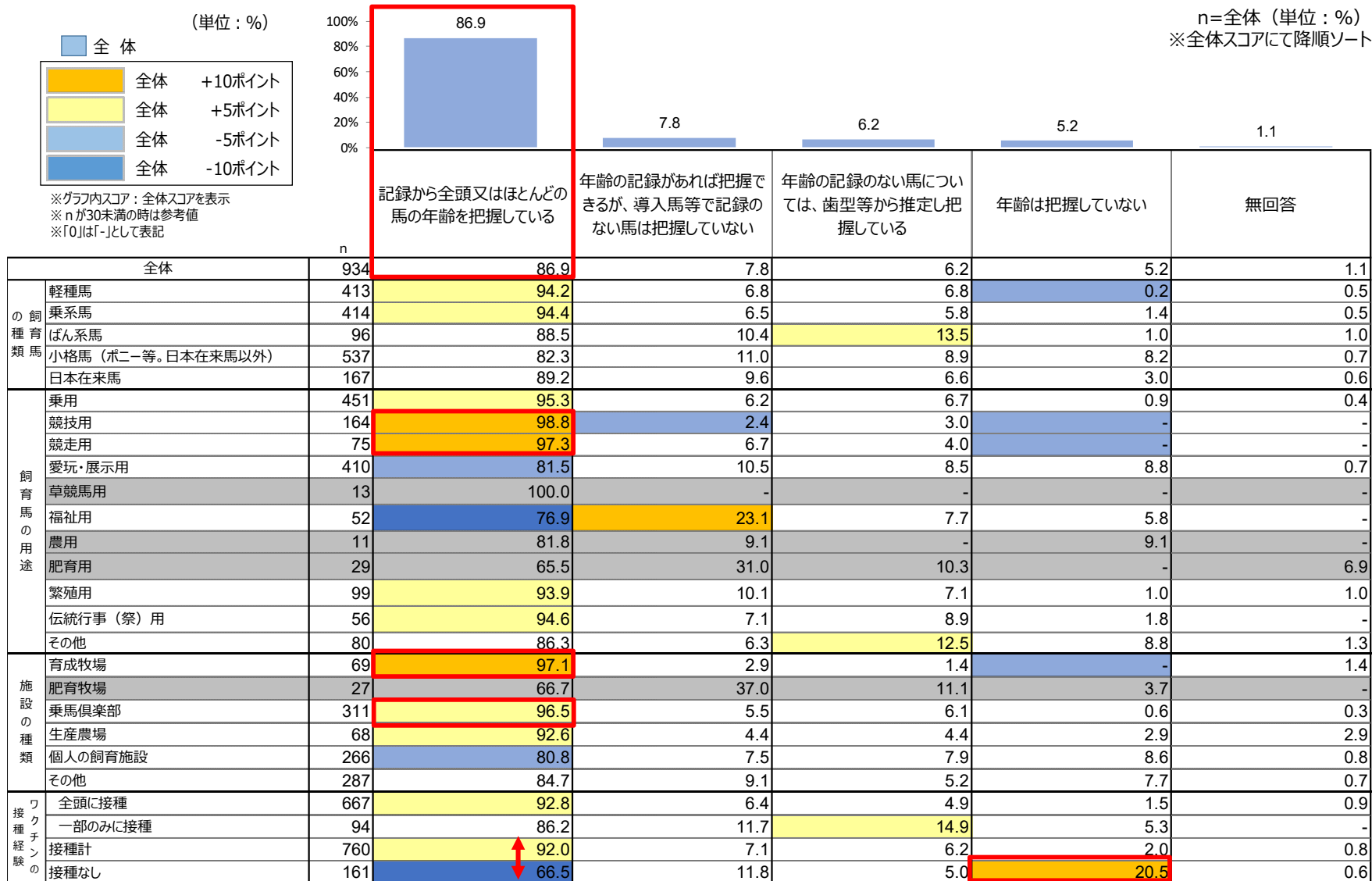
Q6. 飼育馬の導入元について、当てはまるものをお選びください。(複数回答可)



飼育馬の年齢把握方法

- 飼育馬の年齢把握方法は、「記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」が87%で最も多い。
- 飼育馬の用途や施設の種類でみると、『競技用』『競走用』『育成牧場』『乗馬クラブ』は「記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」が95%以上で非常に多い。
- ワクチンの接種経験でみると、『接種計』は『接種なし』よりも「記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」が25pt以上高い。また、『接種なし』は「年齢は把握していない」が全体よりも10pt以上高い。

Q7. 年齢の把握方法について、あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）

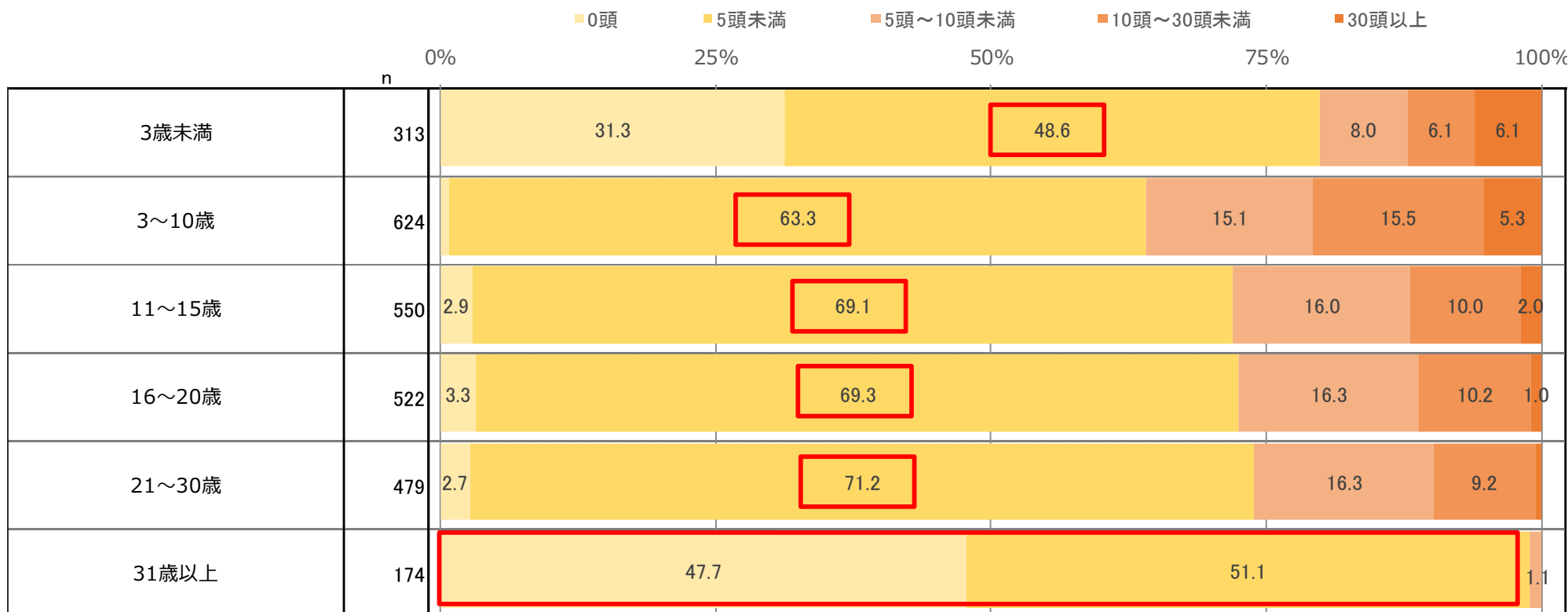


飼育馬の年齢分布

- 飼育馬の年齢分布は、いずれの年齢分布においても「5頭未満」が最多。『21～30歳』については同項目が71%で大半を占める。
- 『31歳以上』は「0頭」「5頭未満」がそれぞれ約半数ずつを占める。

Q8. 飼育馬の年齢分布について、頭数を数字でご記入ください。

n=回答者ベース（単位：%）



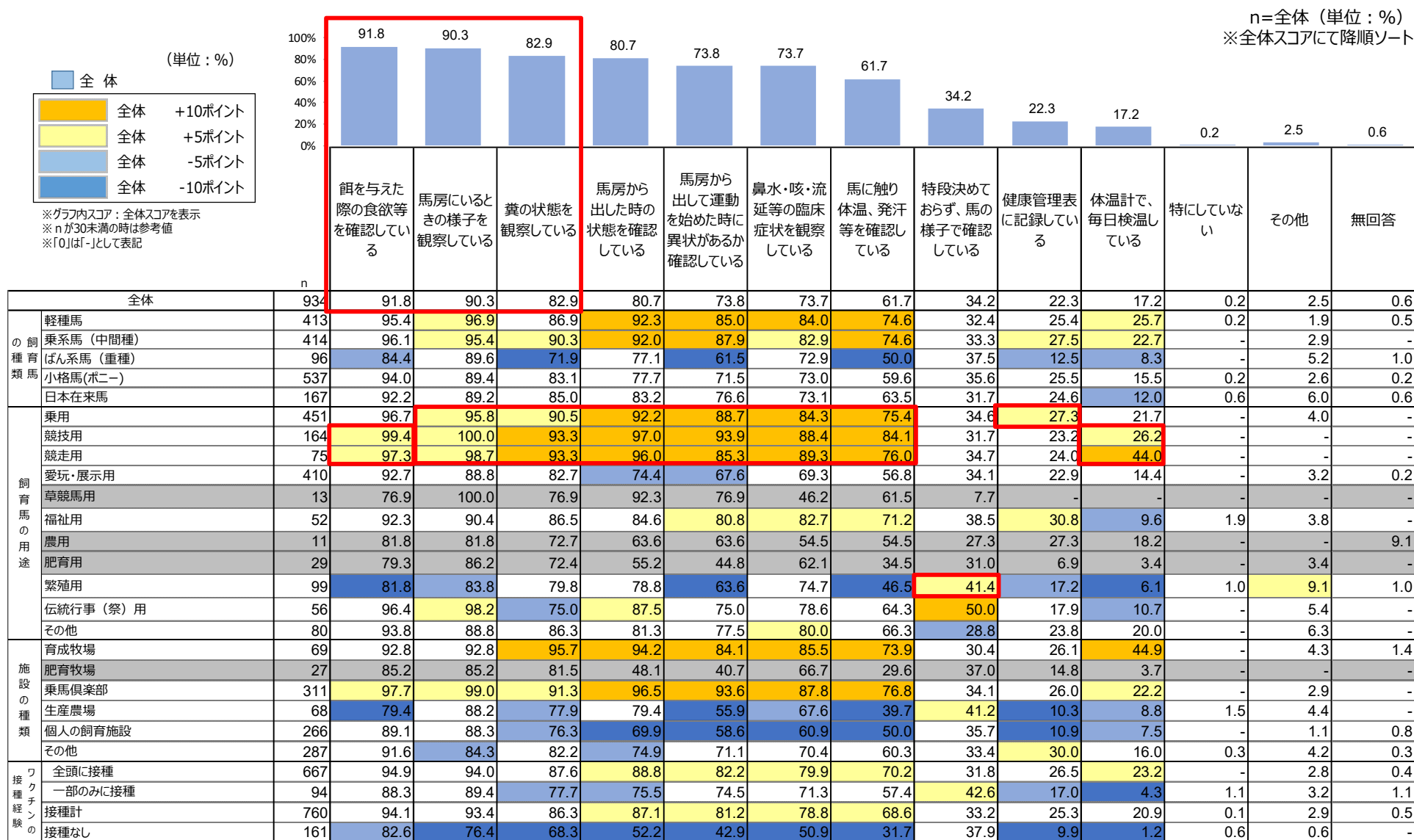
※1%未満は数値非表示

2.飼育馬の健康管理と衛生管理

飼育馬の毎日の観察方法

- 飼育馬の毎日の観察方法は、「餌を与えた際の食欲等を確認している」が92%で最も高く、次いで「馬房にいるときの様子を観察している」が90%、「糞の状態を観察している」が83%の順が多い。
- 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』『競走用』は全体よりも5pt以上高い項目が多く、様々な方法で飼育馬を観察している。一方で、『繁殖用』は全体よりも低い項目が多く、「特段決めておらず、馬の様子で確認している」の項目のみ、全体よりも5pt以上高い。

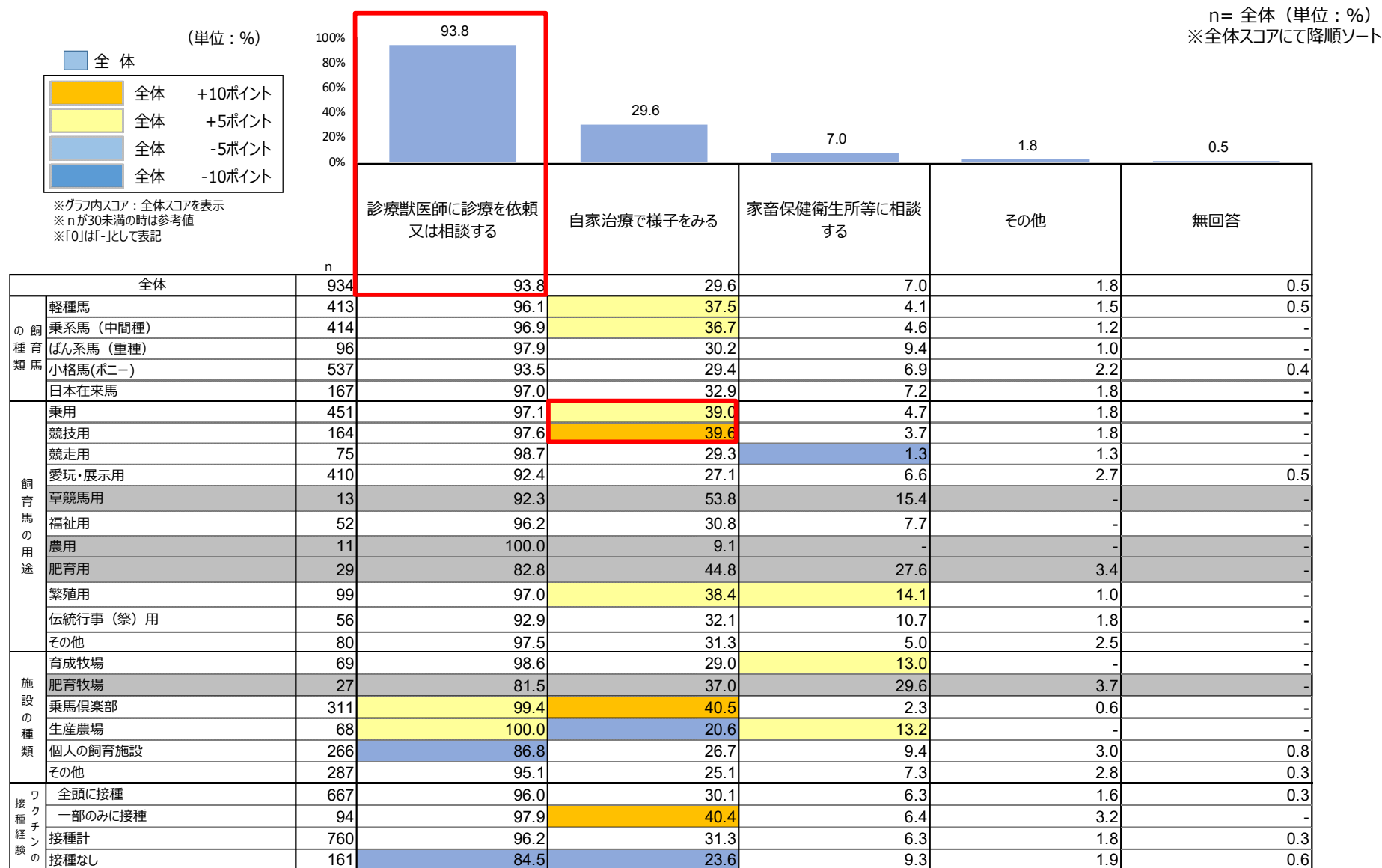
Q9. 飼育馬の毎日の健康観察はどのように実施していますか。（複数回答可）



飼育馬に異状が認められた場合の対応

- 飼育馬に異状が認められた場合の対応は、「診療獣医師に診療を依頼又は相談する」が94%で特に多い。
- 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』は「診療獣医師に診療を依頼又は相談する」が最も多いが、「自家診療で様子を見る」が全体よりも高く、『競技用』については全体よりも10pt以上高い。

Q10. 飼育馬に異状が認められた場合、どのように対応していますか。（複数回答可）



自家治療の内容（一部抜粋）

➤ 跛行や疝痛等の軽度なものであれば、自家治療で様子を見て、良くならない場合は獣医に依頼をしているという回答が多い。

Q11. Q10で「③自家治療で様子を見る」と回答された方は、具体的にどのような場合でしょうか。また、どのような内容でしょうか

n= 飼育馬に異状が認められた場合、自家治療で様子を見る方

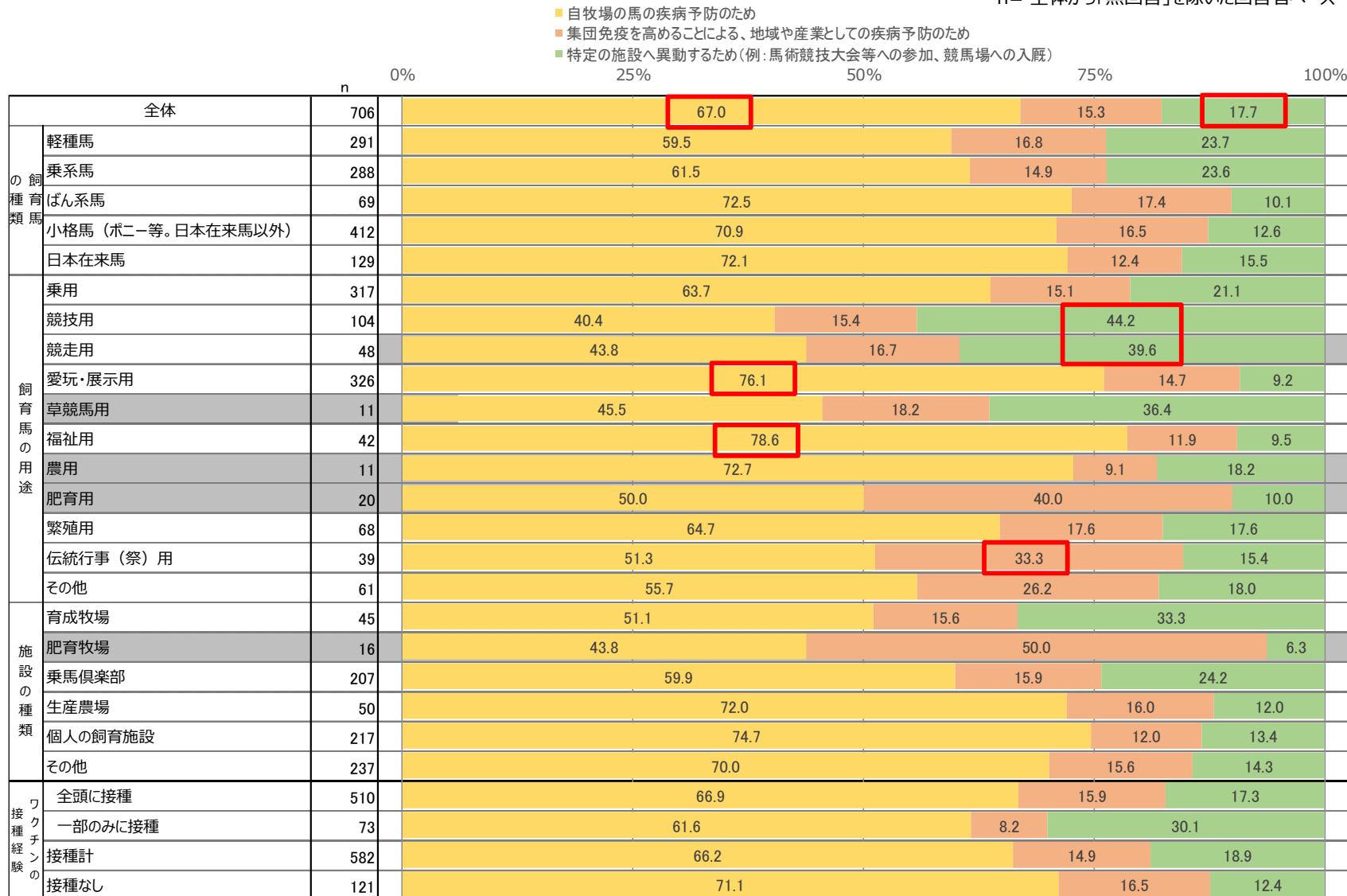
- 跛行等、軽症なもの。のち獣医師に依頼。
- 跛行や疝痛などは数日様子を見てケアしたのち、良くならない場合は獣医に電話。ケガなどは（外傷）はすぐに電話。
- 跛行はしていないが肢に熱感がある→消炎薬。疝痛ではないけど、ポロの出が少ない→マッサージ等。
- 疝痛様の場合は曳き馬や浣腸、肢の異状は水冷や休ませる等で数日様子を見る。→改善の兆候が無い時点で早急に獣医師に連絡する。
- 疝痛の兆候が確認できた時（餌や水の飲食が無く、排便が極端に少ない時）は数日間断食させる等の対応をしている。
※獣医師からのアドバイスです。
- 疝痛で排泄の様子を見るとか、えさを抜くとか、かんちょうとか、体温。
- 疝痛をよく起こす馬がおり、症状が表れた際には絶食、水を飲ませる曳き馬などで対応し、改善が見られない場合はバナミンを投与している。
- 比較的軽度の擦過傷や一過性の疝痛などについては常備薬等で経過を観察することとしている。
- 特定症状が見られない軽度の怪我の場合は洗浄と消毒のみ行う。
- 腹痛なのか前かきの様子がみられたら少し様子を見る。食べ残しがあれば腹痛の可能性とみて断食を試みる。
- 目のはれやじんましんなどの症状が出やすい馬がいるので、以前獣医さんに聞いた治療をまずは自分たちで判断して行なっています。
- 程度にもよるが、軽い捻挫などは湿布薬を塗布したりしている。
- 脱水状態のような時は、好んで飲む飲み物を与えて様子を見てみる。等、自分の分かる異状で対処できる場合。
- 体温が高い以外の異状が認められない場合など。
- 創傷であれば適切な洗浄等の処置。体調不良であれば原因の特定と対策。
- 食欲がいつもよりない時などはよく観察したり、ポロの出が確認できない時は歩かせたりして様子を見て、戻らない時に獣医に連絡して来てもらっている。
- 飼育開始から3年になるが、今までに軽度の蹄葉炎や肘腫、過長歯を発症したが、獣医師である私が治療し、治癒した。
- 軽度の仙痛の場合運動させ、腸を動かすなど。
- 軽度のケガなどは手持ちの薬品で治療。
- 軽めの疝痛の場合、軽めの運動をする。外傷や、ハレ、熱（肢）の場合、薬をぬったり、水冷、歩様の確認などをする。
- 餌を食べない、横になっている、等、通常の振る舞いに異変を感じた時に検温、運動、馬衣の着用等で半日～1日位、様子を把握する。
- お腹の調子が良くない時、飼料制限したり、漢方を飼料に混ぜて飲ませる。

3.馬の感染症対策について

ワクチン接種の目的

- ワクチン接種の目的は、「自牧場の馬の疾病予防のため」が67%で最も多く、次いで「特定の施設へ異動するため（例：馬術競技大会等への参加、競馬場への入厩）」が18%が多い。
 - 飼育馬の用途でみると、『愛玩・展示用』『福祉用』は「自牧場の馬の疾病予防のため」が特に多く、75%以上を占めている。一方で、『競技用』『競走用』は「特定の施設へ異動するため（例：馬術競技大会等への参加、競馬場への入厩）」が全体よりも10pt以上高い。また、『伝統行事（祭）用』は「集団免疫を高めることによる、地域や産業としての疾病予防のため」が全体よりも10pt以上高い。
- Q12. ワクチン接種の目的について、ご自身の認識に合致する項目を選択してください。

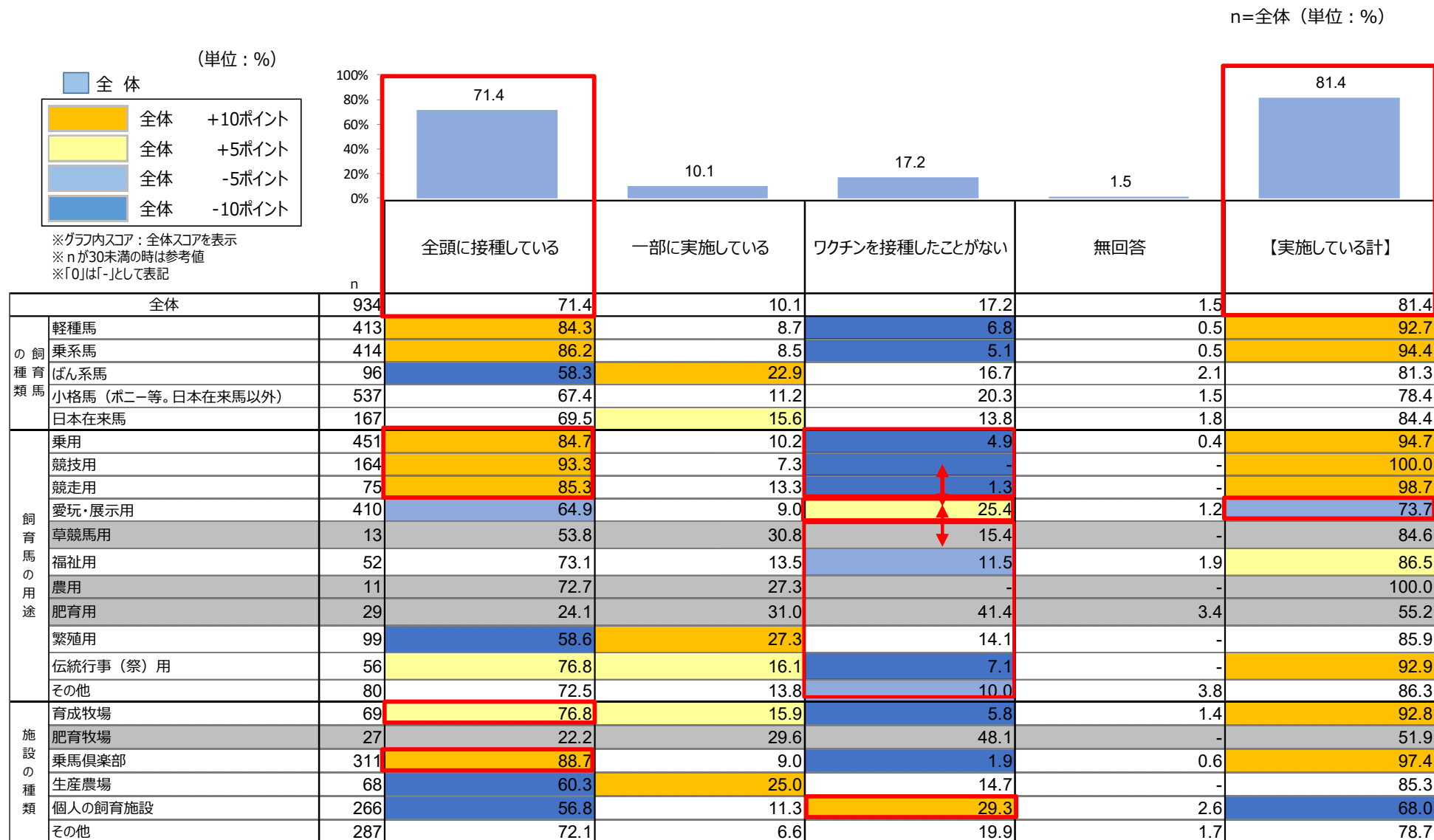
n = 全体から「無回答」を除いた回答者ベース（単位：%）



ワクチン接種の状況

- ワクチン接種の状況は、「全頭に接種している」が最も多く71%、「実施している計」は81%。
- 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』『競走用』は「全頭に接種している」が全体よりも10pt以上高い。一方で、『愛玩・展示用』は「ワクチン接種をしたことがない」が全体よりも5pt以上高く、他の馬と比べてワクチンの接種率は低い。
- 施設の種類の観点でみると、『育成牧場』『乗馬クラブ』は「全頭に接種している」が全体よりも高いが、『個人の飼育施設』は「ワクチンを接種したことがない」が全体よりも10pt以上高い。

Q13. 飼養している馬にワクチンを接種していますか。(複数回答可)

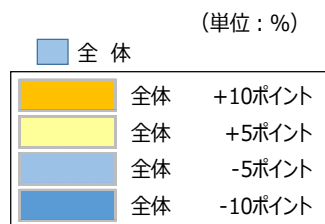


※「実施している計」=「全頭に接種している」+「一部に実施している」

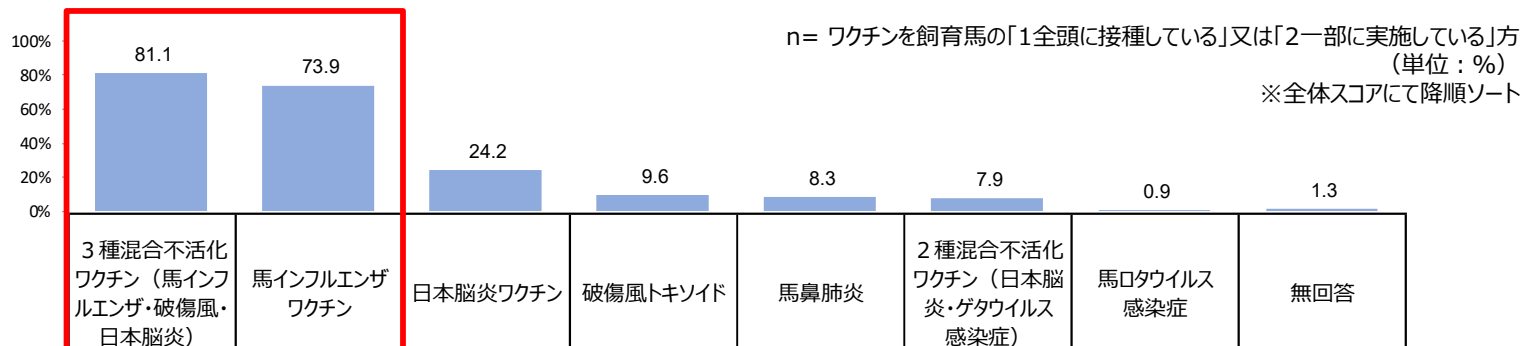
接種経験のあるワクチンの種類

- 接種経験のあるワクチンの種類は、「3種混合不活化ワクチン（馬インフルエンザ・破傷風・日本脳炎）」が81%で最も高く、「馬インフルエンザワクチン」が74%で続いており、この2種類のワクチンが他の種類のワクチンと比べて特に高い。
- 飼育馬の用途でみると、『競走用』は全体よりも高い項目が他の用途と比べて多く、多種多様なワクチンを接種している。
- 施設の種類の種類でみると、『育成牧場』はいずれの項目も全体よりも高く、多種多様なワクチンを接種している。また、『乗馬クラブ』は「3種混合不活化ワクチン（馬インフルエンザ・破傷風・日本脳炎）」が92%で全体よりも10pt以上高い。

Q14. Q13で「1全頭に接種している」又は「2一部に実施している」と回答された方にお伺いします。接種したことのあるワクチンの種類をお教えてください。（複数回答可）



※グラフ内スコア：全体スコアを表示
 ※nが30未満の時は参考値
 ※「0」は「-」として表記



接種経験の種類	n	接種したことがあるワクチンの種類 (単位：%)								
		3種混合不活化ワクチン (馬インフルエンザ・破傷風・日本脳炎)	馬インフルエンザワクチン	日本脳炎ワクチン	破傷風トキソイド	馬鼻肺炎	2種混合不活化ワクチン (日本脳炎・ゲタウイルス感染症)	馬ロタウイルス感染症	無回答	
全体	760	81.1	73.9	24.2	9.6	8.3	7.9	0.9	1.3	
飼育馬の種類	軽種馬	383	90.6	82.2	30.5	11.2	10.2	10.4	1.0	0.5
	乗系馬	391	87.7	80.8	33.0	11.8	7.4	8.2	1.3	0.3
	ばん系馬	78	65.4	78.2	15.4	3.8	20.5	5.1	1.3	1.3
	小格馬 (ポニー等。日本在来馬以外)	421	82.2	74.3	24.9	8.6	5.7	6.7	1.0	1.4
	日本在来馬	141	81.6	74.5	14.9	7.8	7.1	5.0	0.7	1.4
飼育馬の用途	乗用	427	87.1	80.6	29.0	10.5	6.6	8.7	0.7	0.5
	競技用	164	82.9	90.2	38.4	14.6	10.4	7.9	0.6	-
	競走用	74	91.9	83.8	28.4	14.9	32.4	27.0	1.4	-
	愛玩・展示用	302	81.1	66.2	19.9	7.9	6.6	6.6	0.7	1.3
	草競馬用	11	81.8	72.7	9.1	9.1	9.1	-	-	-
	福祉用	45	86.7	73.3	13.3	2.2	4.4	2.2	-	4.4
	農用	11	63.6	81.8	9.1	9.1	18.2	9.1	-	-
	肥育用	16	68.8	81.3	25.0	18.8	18.8	6.3	12.5	-
	繁殖用	85	69.4	85.9	17.6	5.9	35.3	7.1	2.4	1.2
	伝統行事(祭)用	52	82.7	67.3	15.4	7.7	9.6	3.8	1.9	-
その他	69	84.1	76.8	34.8	10.1	11.6	10.1	-	-	
施設の種類の種類	育成牧場	64	82.8	87.5	31.3	18.8	31.3	34.4	3.1	-
	肥育牧場	14	71.4	92.9	14.3	7.1	14.3	7.1	7.1	-
	乗馬倶楽部	303	92.1	83.5	33.7	10.2	6.6	5.9	1.3	0.7
	生産農場	58	65.5	79.3	19.0	8.6	37.9	6.9	3.4	5.2
	個人の飼育施設	181	71.3	56.4	13.8	6.6	4.4	5.5	-	1.7
その他	226	75.7	73.0	22.1	9.3	4.9	7.1	-	1.3	
接種経験の種類	全頭に接種	667	83.1	74.5	25.8	9.9	8.4	8.7	0.7	0.9
	一部にのみ接種	94	67.0	70.2	12.8	7.4	8.5	2.1	2.1	4.3
	接種計	760	81.1	73.9	24.2	9.6	8.3	7.9	0.9	1.3
	接種なし	1	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-

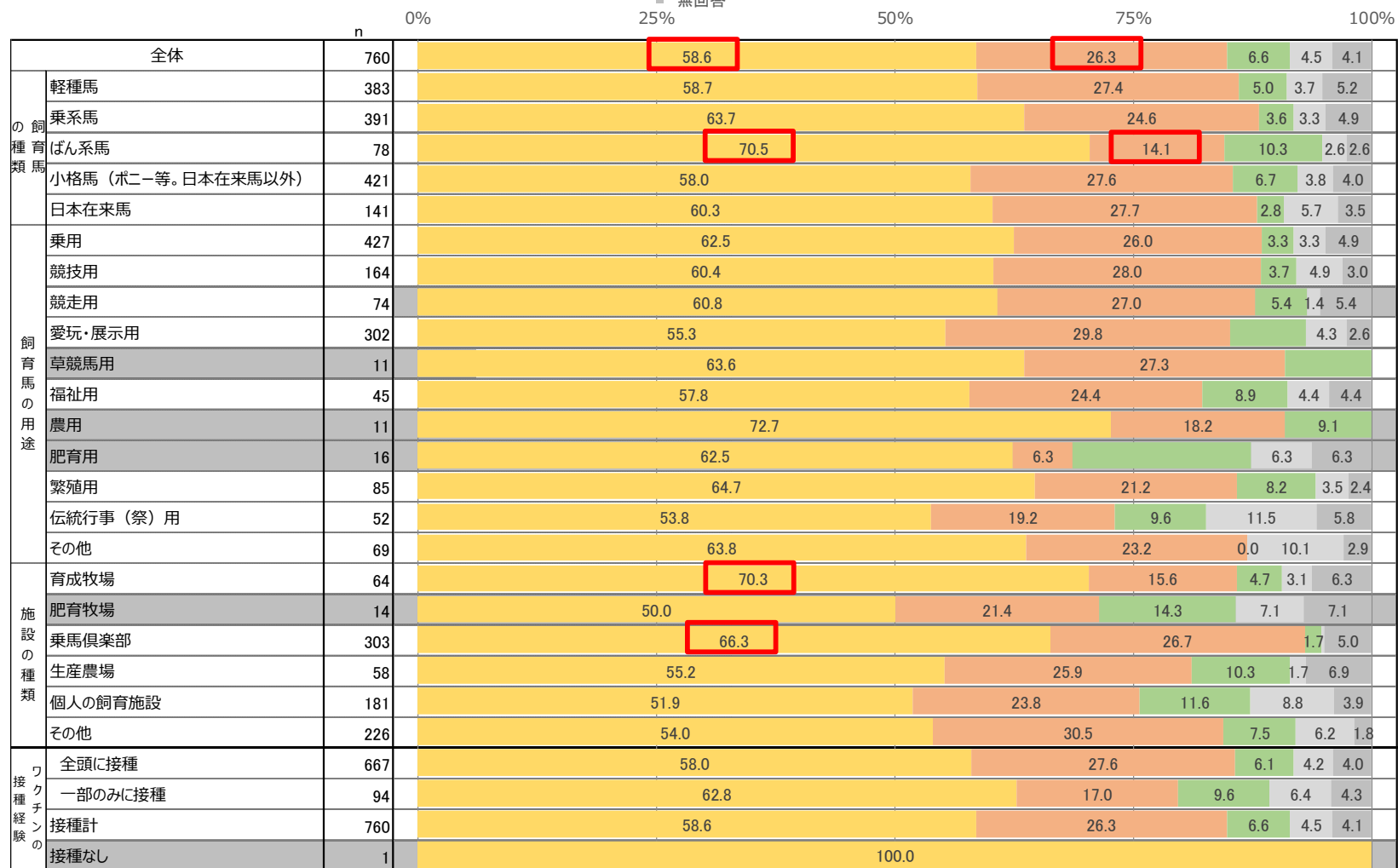
ワクチン接種のスケジュール管理者

- ワクチン接種のスケジュール管理者は、「牧場管理者が管理しており、接種のたびに獣医師に依頼している」が59%で最も多く、次いで「獣医師が管理しており、牧場へ連絡が入る」が26%が多い。
- 飼育馬の種類でみると、『ばん系馬』は「牧場管理者が管理しており、接種のたびに獣医師に依頼している」が71%で全体よりも10pt以上高い。一方で、「獣医師が管理しており、牧場へ連絡が入る」は全体よりも10pt以上低い。
- 施設の種類の観点でみると、『育成牧場』『乗馬クラブ』は「牧場管理者が管理しており、接種のたびに獣医師に依頼している」が全体よりも高い。特に『育成牧場』は同項目が全体よりも10pt以上高い。

Q15. Q13でワクチンを「1全頭に接種している」又は「2一部に実施している」と回答された方にお伺いします。ワクチンを接種するスケジュールは、どなたが管理していますか。

■ 牧場管理者が管理しており、接種のたびに獣医師に依頼している
■ 獣医師が管理しており、牧場へ連絡が入る
■ 畜産協会や衛生指導協会等の畜産関係団体からの案内で接種している
■ その他
■ 無回答

n=ワクチンを飼育馬の「1全頭に接種している」又は「2一部に実施している」方（単位：%）

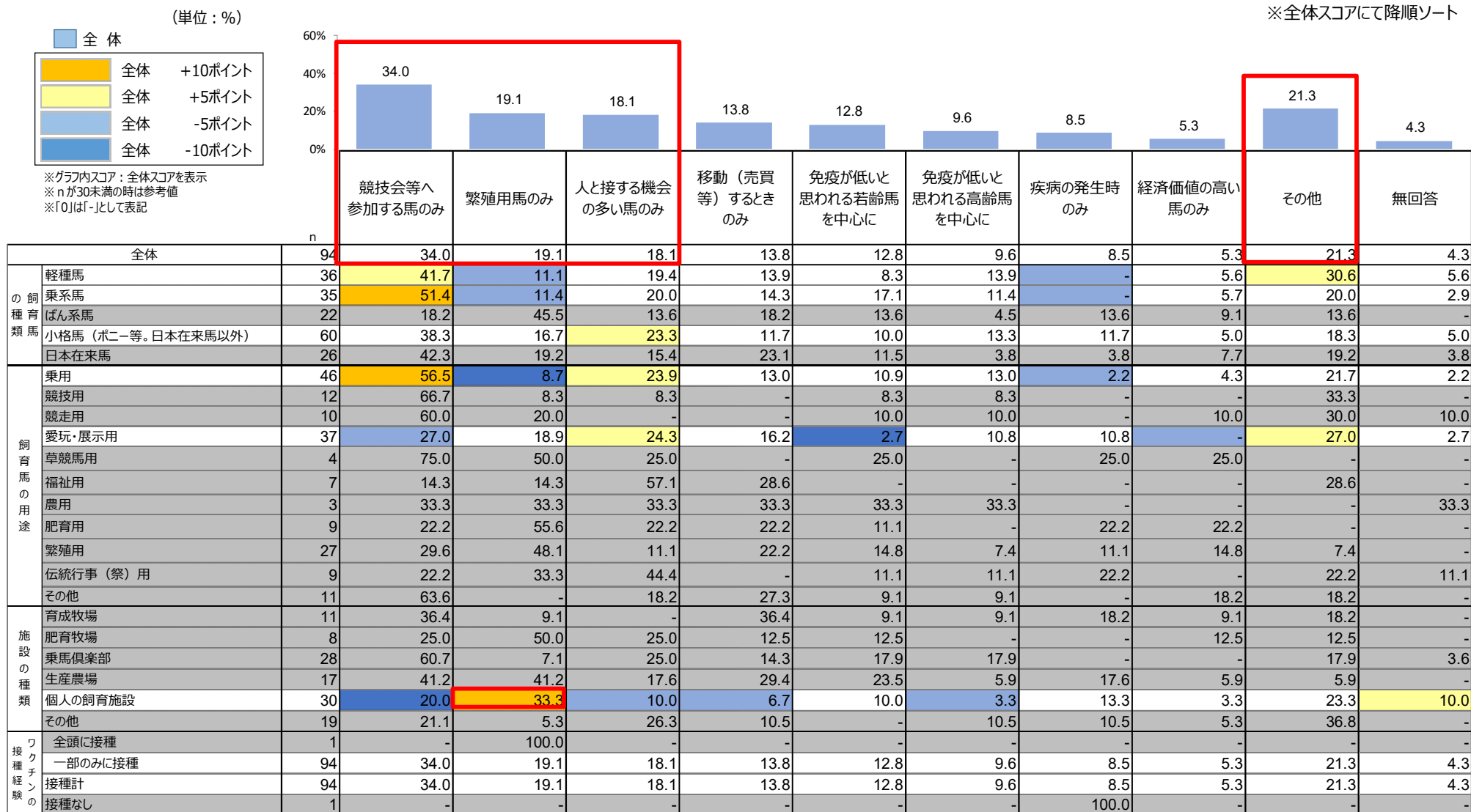


「ワクチンの一部接種」の対象

- ワクチンの一部接種の対象は、「競技会等へ参加する馬のみ」が34%で最も高く、「繁殖用馬のみ」「人と接する機会の多い馬のみ」が約20%で続く。「その他」は21%で、「サラブレッドのみ」「自治体で実施していたワクチン接種の時に実施していた。5年以上前」「若くて移動の可能性がある馬のみ実施」等と回答された。
- 施設の種類の観点から、『個人の飼育施設』は「繁殖用馬のみ」が33%で、全体よりも10pt以上高い。

Q16. Q13で「2一部に実施している」と回答された方にお伺いします。「一部」の内容をお教えてください。（複数回答可）

n=ワクチンを飼育馬の「2一部に実施している」方（単位：%）
※全体スコアにて降順ソート

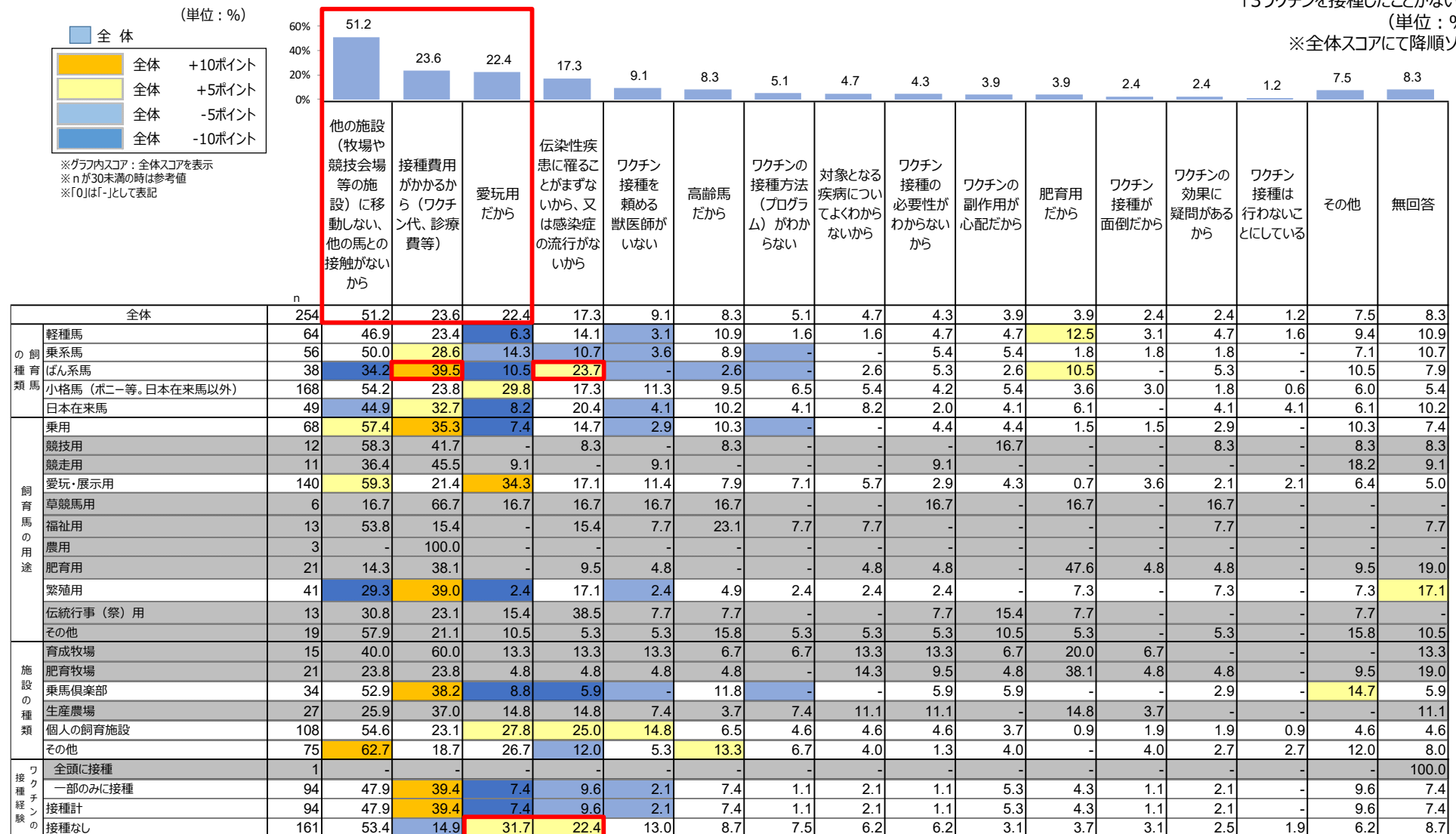


ワクチン接種をしたことがない理由

- ワクチン接種をしたことがない理由は、「他の施設（牧場や競技会場等の施設）に移動しない、他の馬との接触がないから」が51%で他の理由と比べて特に高い。次いで「接種費用がかかるから（ワクチン代、診療費等）」「愛玩用だから」が24～22%で続く。
- 飼育馬の種類でみると、『ばん系馬』は「接種費用がかかるから（ワクチン代、診療費等）」「伝染性疾患に罹ることがまずないから、又は感染症の流行がないから」が全体よりも高い。
- ワクチンの接種経験でみると、『接種なし』は「愛玩用だから」「伝染性疾患に罹ることがまずないから、又は感染症の流行がないから」が全体よりも5pt以上高い。

Q17. Q13で「2一部に実施している」及び「3ワクチンを接種したことがない」と回答をされた方にお伺いします。（複数回答可）

n=ワクチンを飼育馬の「2一部に実施している」又は「3ワクチンを接種したことがない」方
(単位：%)
※全体スコアにて降順ソート

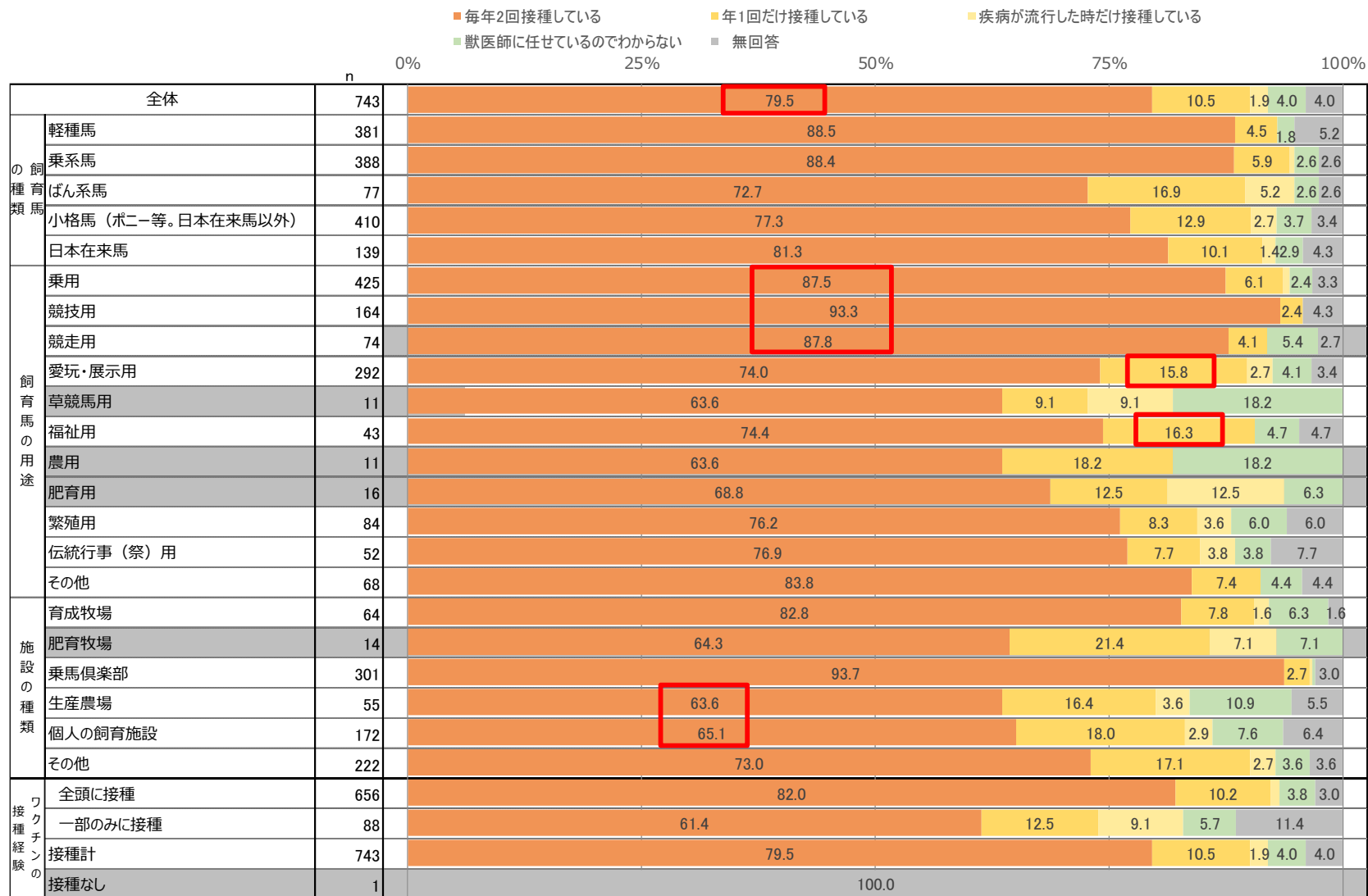


馬インフルエンザワクチンの接種方法

- 馬インフルエンザワクチンの接種方法は、「毎年2回接種している」が最も多く80%で大半を占める。
- 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』『競走用』は「毎年2回接種している」が全体よりも高い。特に『競技用』は同項目が93%で全体よりも10pt以上高い。『愛玩・展示用』『福祉用』は「毎年2回接種している」が多くを占めているが、「年1回だけ接種している」が全体よりも5pt以上高い。
- 施設の種類でみると、『生産農場』『個人の飼育施設』は「毎年2回接種している」が全体よりも10pt以上低い。

Q18. 馬インフルエンザワクチン（3種混合不活化ワクチンも含む）を接種している（全頭でも一部でも）馬飼養者の方に、接種方法についてお伺いします。

n=飼育馬に馬インフルエンザワクチン又は3種混合不活化ワクチンを接種している方（単位：%）

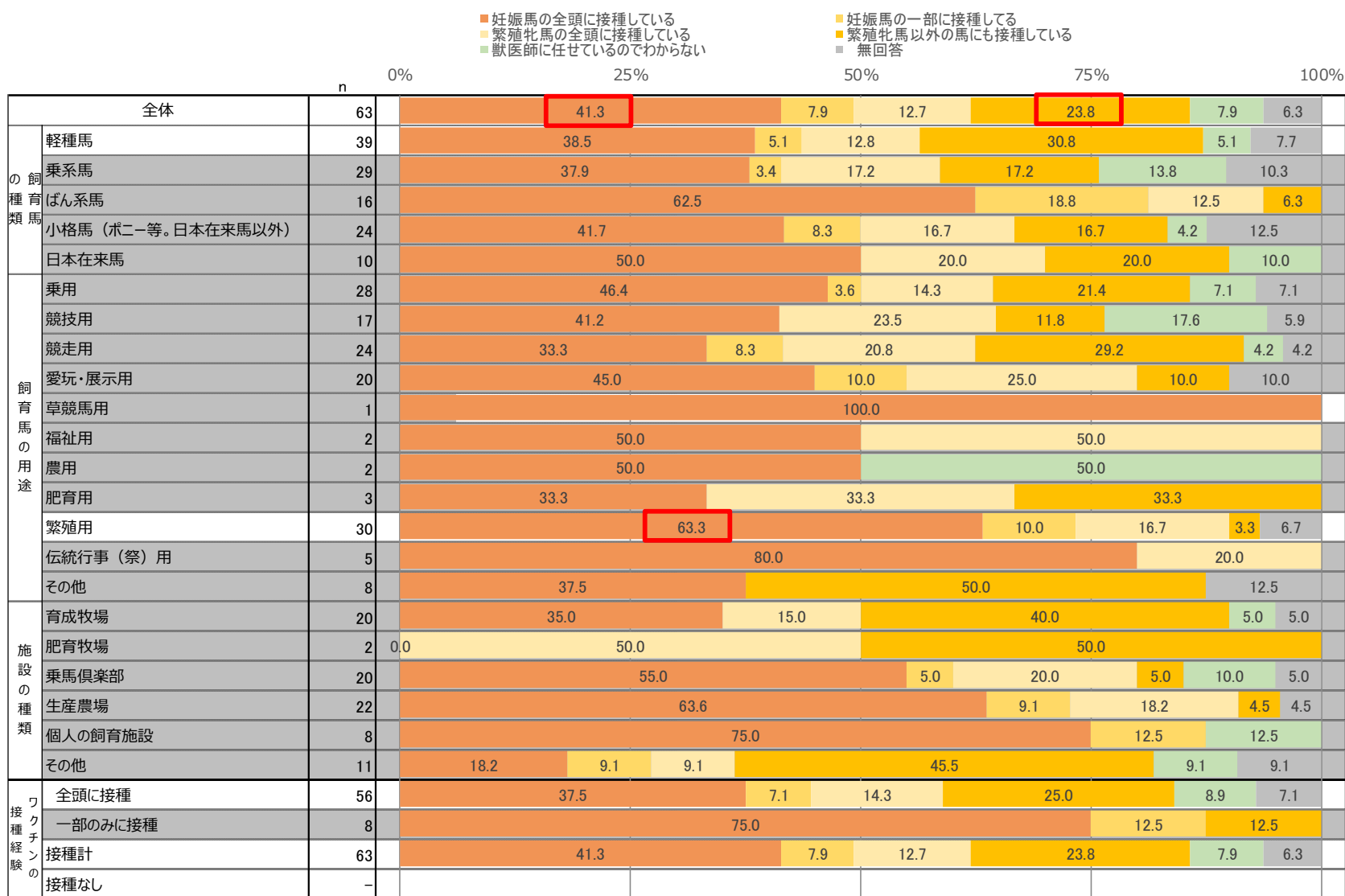


馬鼻肺炎ワクチンを接種している馬

- 馬鼻肺炎ワクチンを接種している馬は、「妊娠馬の全頭に接種している」が41%で最も多く、次いで「繁殖牝馬以外の馬にも接種している」が24%が多い。
- 飼育馬の用途でみると、『繁殖用』は「妊娠馬の全頭に接種している」が63%で全体よりも10pt以上高い。

Q19. 馬鼻肺炎ワクチンを接種している馬飼養者の方に、接種している馬についてお伺いします。

n=飼育馬に馬鼻肺炎ワクチンを接種している方（単位：%）

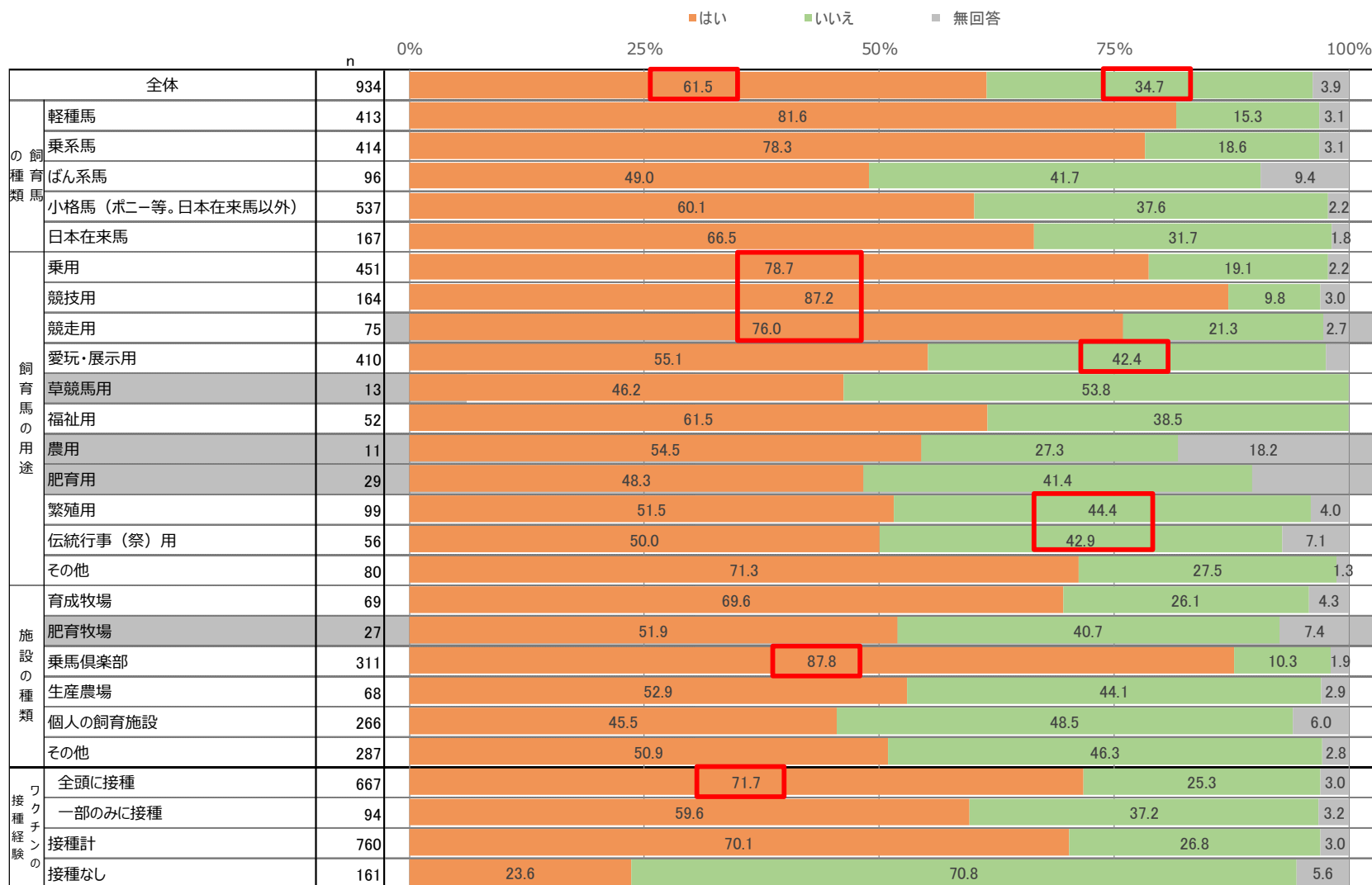


「馬の予防接種要領」「予防接種実施要領」の認知

- 「馬の予防接種要領」「予防接種実施要領」の認知状況は、「はい」が62%、「いいえ」が35%で半数以上の馬飼養者が認知している。
- 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』『競走用』は「はい」が75%以上を占めており、全体よりも10pt以上高い。一方で『愛玩・展示用』『繁殖用』『伝統行事（祭）用』は「いいえ」が40%以上を占めていて、全体よりも高い。
- 施設の種類の観点でみると、『乗馬倶楽部』は「はい」が約90%で大半を占める。
- ワクチンの接種経験でみると、『全頭に接種』は「はい」が72%で全体よりも10pt以上高い。

Q20. 軽種馬防疫協議会の「馬の予防接種要領」や、日本馬術連盟の「予防接種実施要領」をご存じですか。

n=全体（単位：%）

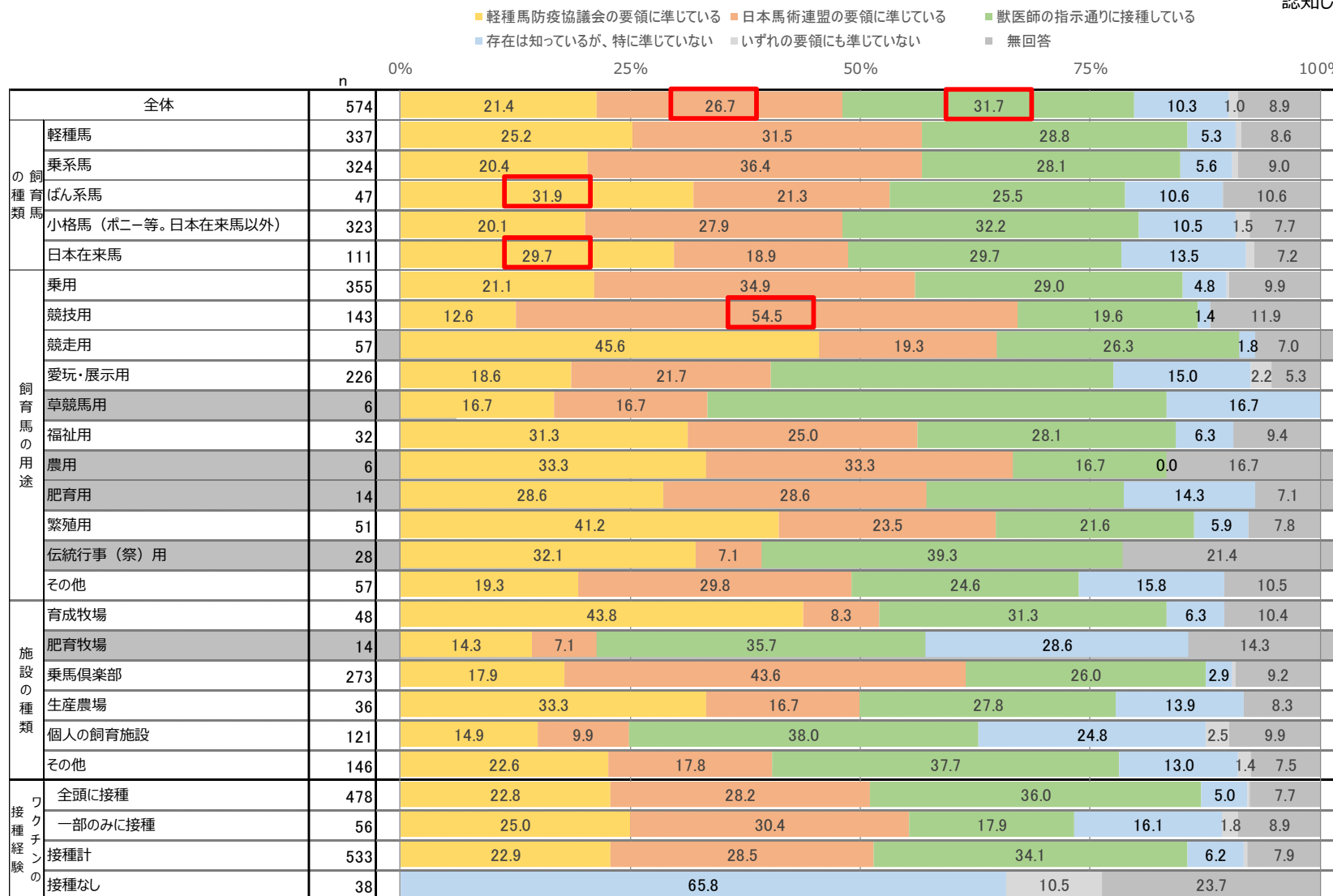


各ワクチン接種要領の準拠状況

- 各ワクチン接種要領の準拠状況は、「獣医師の指示通りに接種している」が32%で最も多く、次に「日本馬術連盟の要領に準じている」が27%で多い。
- 飼育馬の種類でみると、『ばん系馬』『日本在来馬』は「軽種馬防疫協議会の要領に準じている」が全体よりも高く、特に『ばん系馬』は全体よりも10pt以上高い。
- 飼育馬の用途でみると、『競技用』は「日本馬術連盟の要領に準じている」が55%で半数以上を占める。

Q21. Q20で「1はい」と答えた方にお伺いします。どちらの要領に準じて、ワクチンを接種していますか。

n = 「馬の予防接種要領」や「予防接種実施要領」を認知している方（単位：%）

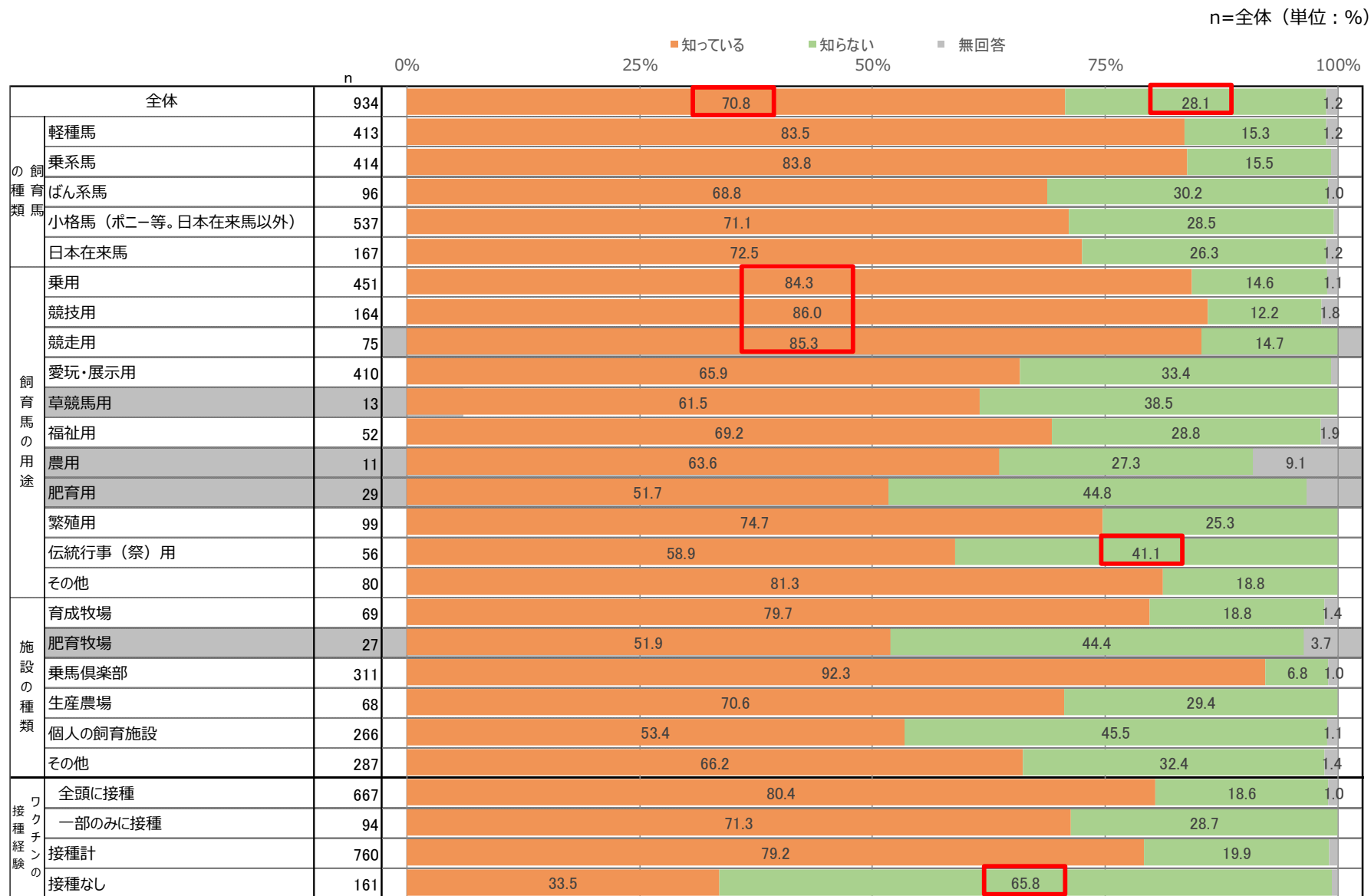


4.助成事業について

ワクチン接種に係る助成事業の認知

- ワクチン接種に係る助成事業の認知状況は、「知っている」が71%、「知らない」が28%で、多くの馬飼養者がワクチン助成事業を認知している。
- 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』『競走用』は「知っている」が80%超えで全体よりも10pt以上高い。一方で、『伝統行事（祭）用』は「知らない」が41%で全体よりも10pt以上高い。
- ワクチンの接種経験でみると、『接種なし』は「知らない」が66%で、半数以上が助成事業を知らない。

Q22. ワクチン接種に係る助成事業について、ご存じですか。

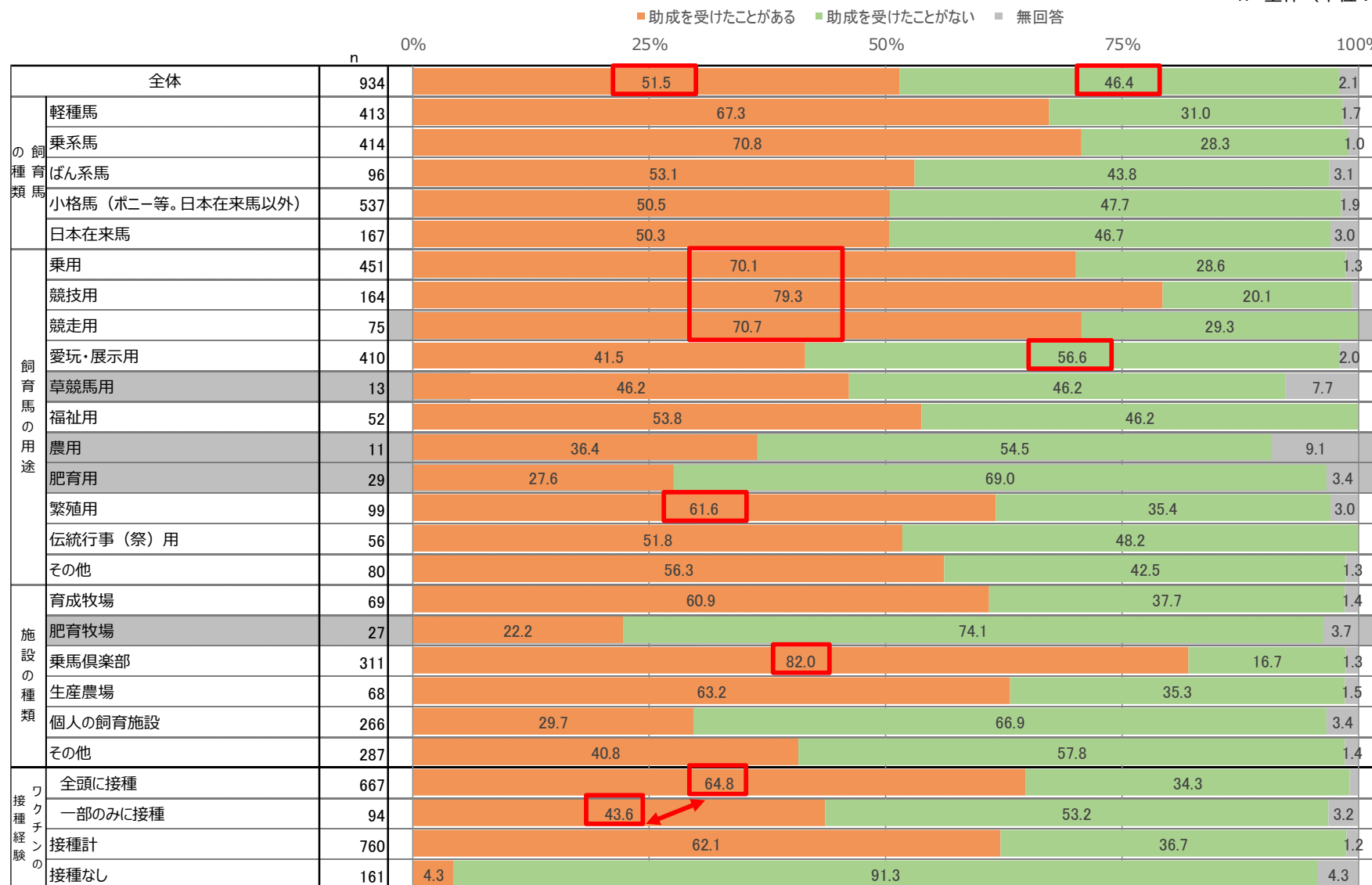


ワクチン接種費用の助成受給状況

- ワクチン接種費用の助成受給状況は、「助成を受けたことがある」が52%、「助成を受けたことがない」が46%を占める。
- 飼育馬の用途でみると、『乗用』『競技用』『競走用』『繁殖用』は「助成を受けたことがある」が全体よりも10pt以上高い。一方で、『愛玩・展示用』は「助成を受けたことがない」が全体よりも10pt以上高い。
- 施設の種類の種類でみると、『乗馬クラブ』は「助成を受けたことがある」が82%で全体よりも10pt以上高い。
- ワクチンの接種経験でみると、『全頭に接種』は『一部のみ接種』よりも「助成を受けたことがある」が20pt以上高い。

Q23. ワクチン接種費用の助成を受けたことがありますか。

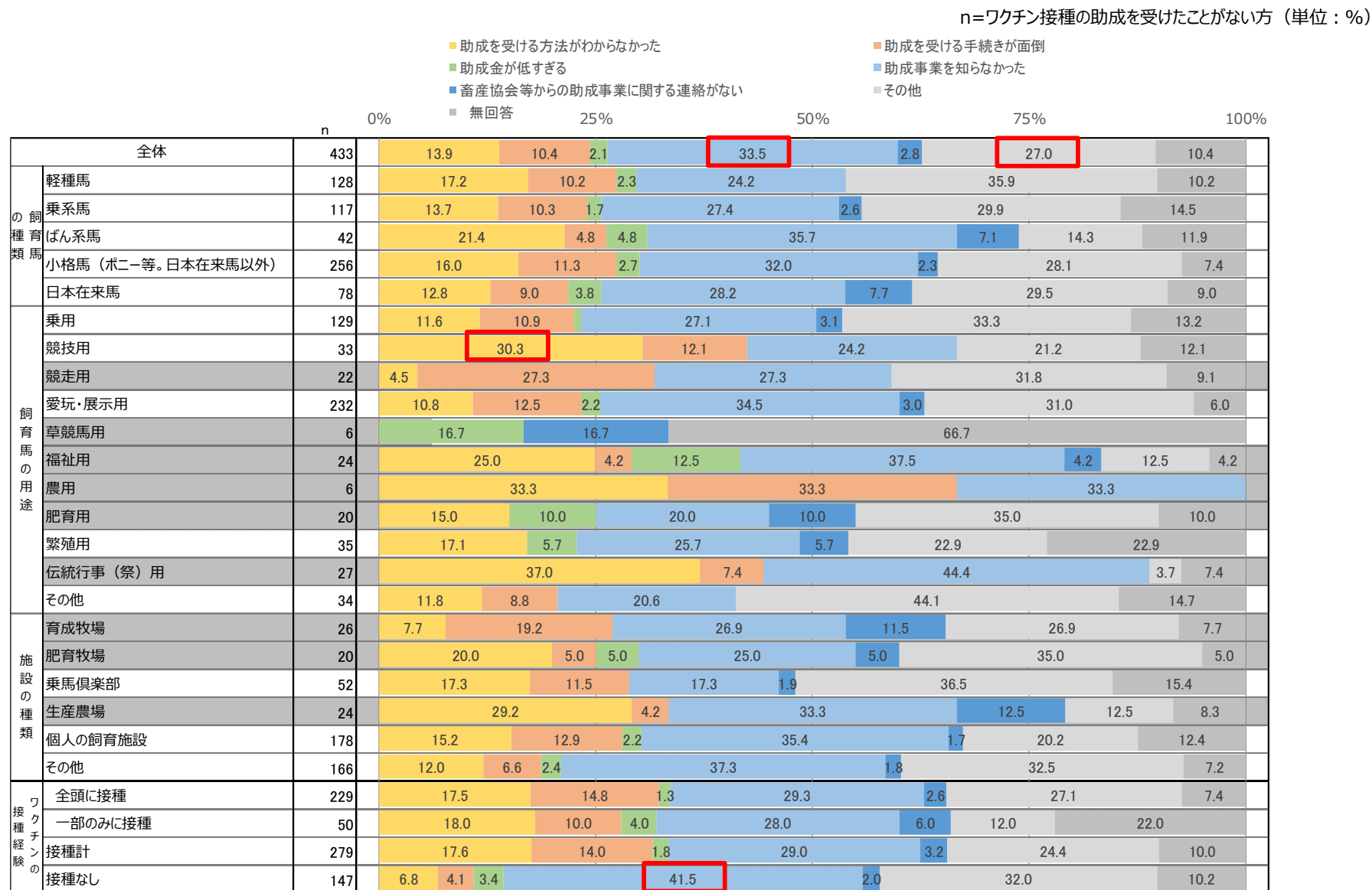
n=全体 (単位: %)



ワクチン接種費用の助成を受けたことがない理由

- ワクチン接種費用の助成を受けたことがない理由は、「助成事業を知らなかった」が最も多く34%、次いで「その他」が27%で多い。具体的には「馬の移動がないため」「1頭だけの為」「ワクチンの必要性を感じない」という理由や「以前点滴で大暴れしたこと、アナフィラキシーの心配から」等と回答された。
- 飼育馬の用途でみると、『競技用』は「助成を受ける方法がわからなかった」が30%で全体よりも10pt以上高い。
- ワクチンの接種経験でみると、『接種なし』は「助成事業を知らなかった」が42%で最も多くを占め、全体よりも5pt以上高い。

Q24. ワクチン接種費用の助成を受けたことがない方にお伺いします。その理由をお教えてください。



意見・要望（一部抜粋）

➤ 意見・要望は「疝痛、ケガの応急処置」「馬の衛生管理対策」「馬の栄養管理」「高齢馬の管理」等の意見が挙げられる。

Q25. ご意見・ご要望

n= Q25回答者

- 疝痛、ケガの獣医がくるまでの応急処置。
- 皮膚炎の初期対応。（夏の気温上昇と期間が長くなり、皮膚炎になりやすく悪化しやすいため）
- 必ず接種する必要があるワクチンはあるのか？
- 繁殖馬の流産の原因等。
- 馬の食べさせていいもの、ダメなもの。（クズの葉を食べるが、どれ位の量を与えてよいか）
- 栄養に関すること。草の種類等。
- 馬の疾病、怪我に対する治療について、飼料について。（栄養）
- 馬の飼料に関する栄養管理について。
- 歯の日常ケアについて教えていただきたいです。
- 飼養衛生管理基準ガイドブックについて乗馬クラブ用を作ってほしいです。
- 国内でどのような馬の感染症が流行しているか、リアルタイムの情報を知りたい。インフルエンザ以外に、どんな感染症が流行するリスクがあるか、その備えも併せて知りたい。
- 馬の疾病や衛生管理対策、栄養管理情報などを教えていただければ、ありがたいです。
- 馬の飼養衛生管理の情報等 ・ワクチンの情報や予防対策について ・馬の疫病と衛生管理 ・馬の栄養管理。
- 日常の馬の飼養管理について講習会で聴講したい。
- 高齢馬の体調管理に関する講習会。
- 高齢馬の給餌管理・高齢馬管理。
- 老齢馬の飼育管理。
- 寄生虫、虫さされによる対処。 高齢になっていく馬への注意。小格馬の注意点。
- ワクチンの副作用は実際どのようなことが起こったのか症例が少なくても具体的に教えてほしい。
- 関節が外れやすいウマの対応。
- 獣医師に対して助成金をスムーズに支払えるシステムがあれば活用したい、日常忙しく、小さなクラブ（個人）では要望を申請しにくいので。
- 獣医師による診察治療薬代等の交通費も含め、その基準と料金の明確化。（共済のような）
- 素晴らしい活動だと思いますのでこれからも宜しくお願いします！ありがとうございました！
- 新しく担当になり、一緒に働くメンバーも入社1・2年生がメインの為、いろいろとわからない事ばかりなので、このようなアンケートがある事でいろいろ学びにつながってよかったと思います。もう少し、しっかり取り組んでいけたらと思いました。

5.2016年度～2025年度 種類・用途・導入元・年齢把握

- 飼育馬の種類は、「軽種馬」「ばん系馬」が増加傾向にある。特に「ばん系馬」については、昨年減少傾向にあったが、今年は昨年よりも5pt以上高い。「乗系馬」は2022年から増加傾向にあったが、昨年から今年にかけて微減傾向にある。また、「小格馬（ポニー等。日本在来馬以外）」についても昨年よりも微減傾向にある。
- 日本在来馬の飼育割合は、「北海道和種」が昨年に比べて30pt以上減少している。一方で「木曽馬」「トカラ馬」は昨年よりも10pt以上増加している。

(n : 回答頭数ベース) (単位 : %)

Q4. 飼育馬の種類

		軽種馬	乗系馬	ばん系馬	小格馬（ポニー等。 日本在来馬以外）	日本在来馬	その他
n							
2025年度 全体	18,931	↑ 52.7	↑ 19.1	↑ 13.7	↑ 7.8	6.7	*
2024年度 全体	12,443	↑ 51.7	↑ 22.1	↑ 5.9	↑ 12.6	7.8	*
2023年度 全体	13,937	49.9	↑ 18.2	↑ 11.3	11.9	8.8	*
2022年度 全体	15,158	61.1	↑ 16.1	8.7	9.4	4.7	*
2021年度 全体	14,537	51.7	17.4	15.6	10.4	5.0	*
2020年度 全体	14,787	60.6	17.4	5.7	11.4	4.9	*
2019年度 全体	13,271	43.8	14.1	23.6	9.9	3.7	4.9
2018年度 全体	8,611	41.9	17.0	19.5	15.2	5.2	1.2
2016・2017年度 全体	20,070	51.4	14.9	16.2	11.5	4.3	1.7

■各年度1位のスコア ■各年度2位のスコア ■各年度3位のスコア

*) 該当調査において選択肢がなかったもの

Q4-5. 日本在来馬の品種

(n : 日本在来馬・回答頭数ベース) (単位 : %)

		①北海道和種	②木曽馬	③野間馬	④対州馬	⑤御崎馬	⑥トカラ馬	⑦宮古馬	⑧与那国馬	その他	無回答
n											
2025年度 全体	1,264	↑ 42.1	↑ 20.0	0.9	8.5	4.1	↑ 23.2	0.6	0.7	*	*
2024年度 全体	967	↑ 72.5	↑ 9.0	0.3	5.8	0.3	↑ 9.6	-	2.5	*	*
2023年度 全体	1,220	78.8	7.1	0.9	4.4	0.7	6.1	-	2.0	*	*
2022年度 全体	712	59.0	13.3	2.5	8.3	0.6	10.0	1.1	4.8	*	0.4
2021年度 全体	725	64.3	13.5	0.6	7.6	0.6	8.3	-	3.0	*	2.2
2020年度 全体	729	58.4	14.8	0.4	8.1	0.4	8.8	-	6.4	*	2.6
2019年度 全体	486	66.0	15.2	0.6	1.4	0.6	15.6	-	0.4	*	*
2018年度 全体	451	50.1	10.6	0.4	11.1	-	0.7	-	4.4	22.6	*
2016・2017年度 全体	854	54.4	13.6	0.8	6.3	0.4	12.1	-	3.2	9.3	*

■各年度1位のスコア ■各年度2位のスコア ■各年度3位のスコア

*) 該当調査において選択肢がなかったもの

- 飼育馬の用途は、「乗用」が昨年は増加傾向にあったのに対し、今年は10pt以上減少している。また、「肥育用」が昨年よりも5pt以上増加している。今年より追加した「競走用」は15%で2025年度全体の中で2番目に高い項目である。
- 飼育馬の導入元は、「乗馬クラブ」が1位、「中央競馬」が3位となり、これらは昨年と同様の結果であった。一方で、今年度は「その他」が26%で昨年よりも5pt以上増加している。「その他」には「他の動物園から」「知人・個人から」等と回答される。

Q5. 飼育馬の用途

(n;回答頭数ベース) (単位: %)

	n	乗用	競技用	競走用	愛玩・展示用	草競馬用	福祉用	農用	肥育用	繁殖用	伝統行事(祭)用	その他
2025年度 全体	15,614	40.0	8.8	15.1	8.1	0.3	1.2	0.1	15.0	7.0	0.9	3.5
2024年度 全体	13,068	53.0	11.6	*	8.7	0.3	1.2	0.1	7.3	7.9	1.1	8.9
2023年度 全体	15,090	47.6	9.4	*	7.7	0.8	1.3	0.4	15.0	7.1	1.6	9.1
2022年度 全体	16,595	44.0	10.3	*	6.6	0.4	0.9	0.4	11.1	9.6	0.9	15.8
2021年度 全体	15,022	48.7	9.8	*	7.9	1.0	1.2	0.2	20.0	4.1	0.9	6.2
2020年度 全体	14,563	48.9	9.0	*	8.8	0.2	1.2	0.2	16.1	5.8	1.1	8.8
2019年度 全体	13,786	45.2	1.2	*	7.5	0.2	0.6	0.1	30.5	3.9	1.2	9.7
2018年度 全体	8,937	57.8	*	*	10.5	0.8	1.2	1.2	18.9	4.7	0.8	4.0
2016・2017年度 全体	20,070	49.6	*	*	7.9	0.5	0.7	0.1	19.7	7.7	*	13.8

■各年度1位のスコア ■各年度2位のスコア ■各年度3位のスコア

*) 該当調査において選択肢がなかったもの

Q6. 飼育馬の導入元 (複数回答可)

n=全体 (単位: %)

	n	中央競馬	公営(地方)競馬	乗馬クラブ	家畜市場	育成牧場	輸入	自家生産	オークション	その他	無回答
2025年度 全体	934	24.4	23.8	45.1	12.5	17.8	14.5	19.2	6.7	25.6	0.6
2024年度 全体	928	23.8	25.6	44.2	13.0	16.7	14.1	23.2	5.7	18.6	3.0
2023年度 全体	921	22.6	23.7	43.8	13.0	16.6	15.0	21.6	*	22.7	1.5
2022年度 全体	885	19.5	21.8	42.0	13.2	15.5	12.1	21.8	*	23.7	1.9
2021年度 全体	969	21.3	23.3	41.5	12.6	17.0	14.7	19.4	*	23.7	2.6
2020年度 全体	1,023	24.5	24.5	41.7	15.2	14.7	14.8	20.0	*	24.3	2.9
2019年度 全体	746	20.6	21.2	40.6	14.6	20.4	13.3	22.0	*	23.1	2.4
2018年度 全体	664	17.6	18.4	40.5	15.5	16.3	13.9	21.7	*	23.6	1.2
2016・2017年度 全体	2,129	10.2	11.2	22.3	9.6	10.9	7.5	13.2	*	15.1	*

■各年度1位のスコア ■各年度2位のスコア ■各年度3位のスコア

*) 該当調査において選択肢がなかったもの

➤ 飼育馬の年齢の把握実態は、例年同傾向である。

Q7. 飼育馬の年齢把握状況（複数回答可）

n=全体（単位：％）

n		記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している (年月日等の記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している)	年齢の記録があれば把握できるが、導入馬等で記録のない馬は把握していない (年齢条件の記録があれば把握できるが、導入馬等で記録のない馬は把握していない)	年齢は把握していない	年齢の記録のない馬については、歯型等から推定し把握している	無回答
2025年度 全体	934	86.9	7.8	5.2	6.2	1.1
2024年度 全体	928	85.2	9.7	5.7	5.9	1.5
2023年度 全体	921	85.8	9.6	5.6	5.8	0.7
2022年度 全体	885	84.3	9.6	5.6	5.4	1.0
2021年度 全体	969	83.0	12.1	4.4	5.4	1.9
2020年度 全体	1,023	83.6	9.8	5.9	6.1	2.2
2019年度 全体	746	82.3	12.6	7.0	9.4	1.7
2018年度 全体	664	83.0	10.5	8.0	6.8	0.8
2016・2017年度 全体	*	*	*	*	*	*

■各年度1位のスコア ■各年度2位のスコア ■各年度3位のスコア

*) 該当調査において選択肢がなかったもの